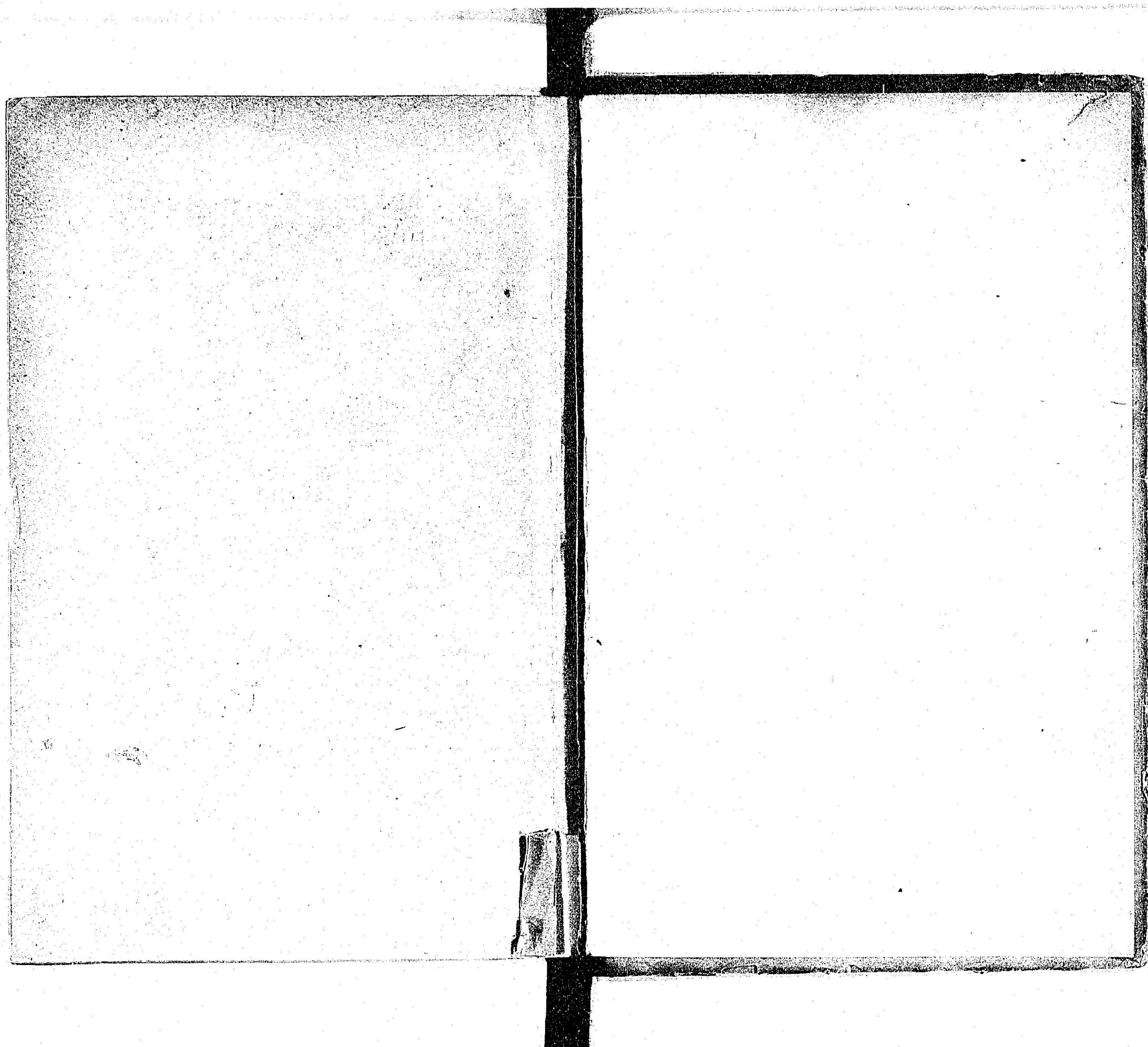


松井順時譯述

和女檢察法全

明治十二年一月發行

2



特16

217

松井順時譯述

和女檢察法全

明治十二年一月發行 松井氏藏版

和姦檢察法

例言

律ニ和姦ノ罪ナシ敢テ論スルヲ要セザルガ如
シト雖モ男女私通シテ胚胎分娩シ其實父ノ判
然ナラザルニ際シ惡計ヲ逞フスル者アルキハ
之ヲ不問ニ措ク可カラズ尋常男女ノ間ニ於テ
尙ホ然リ況ンヤ有夫ノ婦人ニシテ密夫ト姦通
胚胎スル者アルニ至テハ必ス法律上ニ於テ之
ヲ罰シ併セテ其孰レノ子タルヤヲ檢察糺明セ

サル可カラザルナリ是ニ於テ和姦檢察ノ法必
ズナカル可カラズ天下モシ其ノ眞偽實否ヲ糺
明スルノ法ヲ欠グキハ人民ノ不幸ユレヨリ大
ナルハナシ狡猾貧窮ノ婦女ハ數夫ニ私通シテ
胚胎スルヲアレバ之ヲ以テ貴賁ト爲シ富者ニ
追テ金錢ヲ強取セントシ甚シキハ妊娠分娩ヲ
偽唱シテ益其狡術ヲ逞フシ或ハ有夫ノ婦人ニ
シテ密夫ト姦通胚胎シ偽テ之ヲ本夫ノ子ト爲
ス者アルニ至ルモ未ダ知ル可カラサルナリ是

レ和姦モ亦タ強姦ト共ニ之ヲ檢察スルノ法ナ
カル可カラザル所以ナリ而シテ強姦ノ事ハ曩者
鳥越未譽至君譯述強姦檢察法ヲ以テ既ニ盡セ
リ今又タ吾輩ハ英國大醫タイロル氏ノ原撰ニ
シテ米國醫學博士ハルツホールン氏ガ增訂改
鑄スル所ノ審判醫術書中ヨリ凡ソ事ノ和姦ニ
涉ルモノ即チ實父確認法分娩檢察法妊娠檢察
法嗣子檢察法孩兒掩蔽檢察法ヲ參酌抄譯シ題
シテ和姦檢察法ト名ケ以テ併ビ行ハレ相待テ

用ヲ全フセシメテ期ス世ノ法律及ビ醫術ニ志
アルノ諸君幸ニ披閱セバ蓋シ又タ少補ナキニ
アラザルベシト云爾

明治十二年一月

譯者識ス

和姦檢察法目錄

第一篇 和姦總論

第一章 實父ノ判然ナラサルヲ糺明スルノ法

第二章 孩兒ノ實父タル者ヲシテ養育ノ責任ヲ負ハ

シムルノ法ヲ論ス

第三章 實父ノ死後ニ於テ分娩シタル孩兒

第四章 受胎ノ日限

第五章 妊娠ヲ掩蔽スルノ罪科

第六章 妊娠ノ徵證

第七章 分娩ヲ掩蔽スルノ罪科

第八章 分娩ノ徵證

第九章 妊期ノ長短

第二篇 家督繼承論

第十章 孩兒家督繼承ノ權利

第十一章 復胎兒家督繼承ノ權利

第十二章 復胎兒ノ分娩

第十三章 異樣兒ノ分娩

第十四章 多兒ノ分娩

第三篇 偽兒論

第十五章 偽兒ノ檢察

第十六章 偽詐ノ分娩

第十七章 偽詐ノ妊娠

和姦檢察法

第一篇 和姦總論

第一章 實父ノ判然ナラサルヲ糺明スルノ法 世

ノ論者或ハ云フ若シ有夫ハ婦人ニシテ密夫ト姦通胚胎シ
其ハ未ダ離婚セザルニ先チ已ニ分娩スル者アルモ國法上
ニ於テハ敢ヘテ其ハ本夫ハ子タリ姦夫ハ子タルヲ糺明ス
ルニ要セザルナリト然リト雖モ醫士ニシテ法廷ニ臨ミ之
ガ檢察ヲ爲ス者ハ審カニ血統上ヨリ其子ノ孰レニ相似タ
ルヤヲ診視セザル可カラザルナリ決シテ容貌體格ノ相似
タルノミヲ以テ之ヲ斷ス可カラズ必ス其舉動ノ全態ト一

種奇異ナル性質ニ依ル可シ故ニ若シ此等ノ點ニ於テ恰モ相似タルノ人アラハ其實父ト見做シテ可ナリ法律上ニ於テ其ノ如何ヲ糺明斷決スルヲ實父確認法ト名ク而シテ斯クノ如キ事件ハ大抵姦通即チ有夫姦ヨリ起ルヲ多クシテ尋常ノ和姦ヨリ生スルヲ至テ稀レナリトス一千八百四十三年五月英國ニ於テ有夫ノ婦人ニシテ姦通分娩セシ者アリ本夫コレヲ法衙ニ訴ヘ其實胤ノ孰レニ在ルヤヲ明斷セシトナシテ此時之ガ証人タル者ソノ果シ姦夫ノ子タルヲ確認シ若シ其兒ヲシテ五百人ノ童子中ニ混ゼシムルモ容易ニ之ヲ辨別スベキヲ確言セリ因テ其ノ姦夫ノ子タルニ決

セリト云フ

又タ時トシテ實父ノ曖昧不定ナルヲ明白ナラシムルニ人種ニ固有ナル所ノ性質及ビ肌色ニ依テ其ノ相似タルヤ否ヲ判スルヲアリ例ヘバ黑人種ト白人種ノ間ニ生シタル者ノ如キ則チ是レナリ凡テ斯クノ如キモノハ其證據ハ之ヲ同人種ノ間ニ生シタル者ニ比スレバ遙カニ明確ナリトス今夫レ黑人ト白人ガ稍々同時ニ同婦ト交シ接孩テ兒ヲ分娩スルニ至ラハ審判上ニ於テ容易ニ其子ノ實父ハ孰レナルヤヲ明斷スルヲ得ベシ古來黑人種ノ婦女ニシテ同時ニ黑色ノ子ト黑白交色ノ子ヲ復胎分娩セシ者往々少シト

セズ醫士カンニングハム氏ノ記ス所ニ依レバ一千八百四十六年五月九日黑人種ノ婦女ニシテ孖兒ヲ分娩シ其一ツハ黑色ニシテ其一ツハ白色ナル者アリシト云フ一千八百五十六年一月他人ノ妻ヲ引誘シテ姦通シ終ニ之ヲシテ胚胎セシメタル者アリ本夫コレヲ悟リ其姦夫ヲ捕ヘテ之ヲ法廷ニ告訴ス此時被告ノ姦夫ハ黑人ニシテ檢察醫士ノ明證スル所ニ依テ其分娩シタル該兒ハ即チ姦通ヨリ生シタル者ニシテ肌色ノ純黒ナルト毛髮ノ細縮スルトヲ以テ之ガ確證トナシ終ニ其實父ハ被告ノ黑人タルニ決セリト身體ノ不具ハ必スシモ父母ヨリ子女ニ遺傳スルモノニア

ラスト雖左ノ事件ニ依テ之ヲ觀レバ身體不具ノ遺傳ヲ以テ其實父ノ何人ナルヤヲ認定セシモノ、如シ曾テ一婦人アリ下婢トナリテ某紳士ノ家ニ使傭セラル居ルヲ數月ニシテ終ニ胚胎シテ一兒ヲ分娩ス因テ該婦ハ法廷ニ出デ之ヲ以テ該紳士ノ實子ナルヲ確唱シ之ガ代言人タル者モ亦タ其子ノ右手ノ六指ナルト該紳士ノ右手ノ六指ト恰モ似類符合スルヲ以テ果シ其ノ實子タルヲ主張ス而シテ被告ナル該紳士ハ之ヲ拒テ曰ク其不具ハ恰モ似類シテ符節ヲ合スガ如キモハアルハ余ガ遺傳ハ致ス所ニアラズ已ニ他人ト交接シテ胚胎シ妊娠中常ニ余ガ不具ハ右手ヲ目撃

せ、シ、チ、以、テ、自、カ、ラ、沁、ニ、之、ヲ、想、像、シ、知、ラ、ズ、識、ラ、ス、其、不、具、チ、
 胎、兒、ニ、感、染、セ、メ、タル、ナ、リ、ト、然、レ、モ、法、官、ハ、其、子、ノ、實、父、ハ、
 即、チ、該、紳、士、ナ、リ、故、ニ、凡、テ、其、養、育、ニ、必、要、ナル、費、用、ハ、該、紳、士、
 ノ、支、辨、ス、ル、所、タル、ベ、キ、ト、宣、告、セ、リ、是、レ、實、ニ、一、千、八、百、四、
 十、七、年、三、月、六、日、ノ、事、ニ、シ、テ、載、セ、テ、同、年、同、月、刊、行、ノ、(メ、デ、イ、カ、
 ル、タ、イ、ム、ス)新、聞、紙、上、ニ、審、カ、ナ、リ、惟、フ、ニ、此、判、決、ハ、形、跡、上、ヨ、
 リ、來、ル、モ、ノ、ニ、ア、ラ、ズ、シ、テ、心、理、上、ヨ、リ、之、ヲ、推、測、シ、タル、モ、ノ、
 ナ、ル、可、シ、何、ト、ナ、レ、バ、若、シ、否、ラ、ス、シ、テ、形、跡、上、ヨ、リ、之、ヲ、斷、決、
 セ、バ、或、ハ、被、告、ノ、該、紳、士、チ、シ、テ、所、謂、似、類、ノ、犧、牲、ヲ、ラ、シ、メ、タ、
 ル、モ、未、ダ、知、ル、可、カ、ラ、ザ、ル、ナ、リ、古、來、五、指、ヲ、具、有、ス、ル、父、母、ノ、

子、女、ニ、シ、テ、往、々、六、指、ヲ、有、ス、ル、者、アル、ハ、人、ノ、ヨ、ク、知、ル、所、ナ、
 リ、然、リ、而、シ、テ、父、母、ハ、雙、手、共、ニ、不、具、ニ、シ、テ、其、子、女、ハ、止、マ、ニ、隻、
 手、ノ、ミ、不、具、ナル、キ、ハ、醫、術、上、ヨ、リ、其、ノ、果、ノ、遺、傳、ノ、然、ラ、シ、ム、
 ル、所、タル、チ、明、證、ス、ル、能、ハ、サ、ル、ナ、リ、
 又、タ、時、ト、シ、テ、法、廷、ニ、於、テ、毛、髮、ノ、色、ニ、依、テ、子、女、ノ、實、父、ヲ、認、
 定、ス、ル、ト、ア、リ、然、レ、モ、之、ニ、依、テ、證、ス、ル、所、ノ、モ、ノ、ハ、夫、ノ、肌、色、
 ニ、依、ル、モ、ノ、ニ、比、ス、レ、バ、遙、カ、ニ、明、確、ナル、チ、得、サ、ル、モ、ノ、ト、ス、
 一、千、八、百、四、十、四、年、一、月、プ、ラ、ツ、ゼ、ル、バ、グ、レ、ー、ナ、ル、者、アリ、法、
 廷、ニ、臨、テ、其、妻、ハ、某、人、ト、姦、通、シ、末、子、ノ、二、名、ハ、正、ニ、姦、夫、ノ、留、
 胤、タル、ト、述、ベ、ヨ、リ、而、シ、テ、原、告、ナル、プ、ラ、ツ、ゼ、ル、バ、グ、レ、ー、モ、

被告ナル其妻モ共ニ黒色ノ毛髪ニシテ其子女モ亦タ末子ノ二名ヲ除クノ外ハ皆ナ黒色ナリ然ルニ其二名ノ末子ハ毛髪赤色ニシテ被告姦夫ノ毛髪モ亦タ赤色ナリシ是ニ依テ見ルキハ其二子ハ姦夫ノ留胤タルニ疑ナシト雖旧此時法官ハ之ヲ以テ直接ノ證據トナサズシテ間接ノ證據ナリトセリ然リトイヘ凡ソ斯クノ如キ事件ハ必スシモ此一證ニ依テ信憑ス可カラサルモノアリ何トナレバ黒色ノ毛髪ヲ具有スル父母ニシテ赤色ノ毛髪ヲ具フル子女アリ又タ赤黒交色ノ毛髪ヲ有スル子女アンバナリ

第二章 孩兒ノ實父タル者ヲシテ養育ノ責任ヲ

負ハシムルノ法ヲ論ス 凡ソ法律上ニ於テ實父ノ眞僞ヲ糾明スルト孩兒ノ實父タル者ヲシテ養育ノ責任ヲ負ハシムルトハ密附ニテ相離レサルモノトス人アリ被告トナリテ法廷ニ臨ムモ醫士ガ檢察スル所ノ事情ニ依リテ某ハ某兒ノ實父ニアラサルヲ主張スルコトナキニシモアラズ然ルガ故ニ醫士ヲシテ交接ニ由テ果シテ淋疾或ハ黴毒ヲ傳達スルモノナルヤ否ヲ決定セシメサル可カラサルナリ一千八百四十四年九月一婦人アリ其産ム所ノ二子ハ某人ノ留胤タルヲ以テ之ヲ養育セシメテ法廷ニ出訴シ某人ハ終ニ法律上ニ於テ其責任ヲ負フベキ旨ヲ宣告セラレタリ

而ノ該婦ノ妊期ハ九ヶ月ノ上ニ出テザリシト云フ是ニ於
 テ被告ナル某人ハ確ク之ヲ拒テ曰ク余ハ曾テ該婦ト交合
 セシトナシ故ニ其子ノ實父ニアラサルナリ何トナレバ該
 婦ハ自カラ構合セシト稱道スル時日ニ於テハ黴毒ヲ患ヒ
 テ大ニ陰莖ヲ傷メ爲ニ交接スル能ハサレバナリト蓋シ斯
 クノ如キ事件ニ際シ醫士ヲシテ若シ之ガ檢察ヲ爲サシメバ
 必ス左ノ二大疑問ヲ生ゼン其ノ第一ニ曰ク斯クノ如キ疾
 病ハ必スシモ交接ニ由テ傳染スルモノナルヤ否第二ニ曰
 ク此等ノ疾病アルガ爲ニ胚胎ノ力ヲ失ハシムルモノナル
 ヤ否ト然レモ尋常ノ事情ニ於テハ此二疑題共ニ大抵ミナ

其否ヲサルヲ知ルナリ

曾テ瑞西國アツペンゼールニ於テ一種奇異ノ訴訟アリ其
 原告人が要求スル所ハ被告人ヲシテ孩兒養育ノ責任ヲ負
 ハシムルニ在リテ原告ナル婦人ハ十七日ノ時限中ニ二名
 ノ男子ト交接シ胚胎ヲ終ニ一兒ヲ分娩セリ然レモ孰レ
 カ其實父ニシテ孰レカ養育ノ責任ヲ負フヘキ者ナルヤヲ
 知ラズ因テ法廷ニ於テ之ヲ糾明シ孰レカヲシテ其責ヲ負
 ハシメントテ哀訴ス然リ而シテ法官ハ此事件ノ容易ニ判決
 ス可カラサルヲ知リ姑ク之ヲ延引シ該兒ノ稍成長シテ
 其容貌體格等ノ恰モ相似タルト否ヲサルトニ由テ孰レカ

其實父ナルヲ辨別スベキ時期至ルノ日ニ於テセシメテ宣
告シ彼ノ二名ノ男子ヲシテ其日マテ各贖金シテ之ヲ養育
スルノ責任ヲ負ハシメタリト云フ是レ實ニ一千八百三十
六年ノ事ナリキ又ター一千八百四十七年三月十三日該國刊
行(ランセツト)新聞ニ登録スル所ニ依レバ前件ヨリモ一層
錯雜ナル一訴訟アリタリ甲乙二名ノ男子アリ常ニ虚弱ナ
ル一少女ト交接シ互ニ之ヲ知ラズ斯クノ如クスルヲ數歲
ニシテ該女ハ終ニ一女兒ヲ分娩ス而シテ其ノ分娩セシハ甲
男ト交接シテヨリ第九ヶ月三日ニシテ乙男ト媾合シテヨ
リ第九ヶ月五日ナリ今之ヲ再説スレバ甲男ト交接シテヨ

リ二百七十九日ノ後ニシテ乙男ト媾合セシヨリ二百七十
一日ノ後ニアリ故ニ甲乙二男ガ該女ト交合セシ時日ノ間
際ハ正ニ八日ナリトス而シテ該女ハ其胚胎ヲ覺知セシヨリ
分娩スルノ日ニ至ルマデ一度モ月經ノ下リシコトナク姪期
満チテ終ニ健全美麗ナル一女兒ヲ産ミ分娩ノ前後ニ於テ
ハ常ニ多量ノ牛乳ヲ飲用セシヲ以テ平生ヨリモ一層壯快
健全ナルヲ得タリ然ルニ該女ハ暫クアツテ卒ニ病死シ其
後ニ至リテ甲乙二男ハ始メテ其共ニ該女ト交接セシヲ知
リ各其兒ヲ養育スルコト拒ミタリ甲男曰ク該女ハ余ト交
接セシヨリ第九ヶ月三日内ニ分娩セカリシヲ以テ該兒ハ

決シテ余ガ胤ヲ留ムルニ源因スルモノニアラサルナリト
 乙男曰ク該女ガ妊娠ノ時限ハ二百八十日ニシテ九ケ月ニ
 アラズ其分娩セシハ甲男ト交接セシヨリ二百七十九日ハ
 後ニアリテ余ト交合シテ後チ二百七十一日ナレバ其兒ハ
 蓋シ甲男ノ爲ニ胚胎セシモノナレベシト
 甲乙二男ノ陳述スルトコロ其レ斯クノ如シ而シテ其兒ノ
 体格容貌等ヲ見ルニ一ツモ孰レニモ似類スル所ナクシテ
 恰モ其母ニ相似タリ夫レ二百七十一日及ビ二百七十九日
 ハ共ニ尋常妊期ノ外ニ出デザルハ醫術上ニ於テ既ニ明カ
 ナリ是ヲ以テ醫術上ヨリ之ヲ論決シテ其孰レカナシテ養

育ノ責任ヲ負ハシムヘキ理由ヲ檢出ス可カラサルナリ若
 シ此二男子ヲシテ同日ニ同女ト交合セシ者タラシメハ其
 言語容貌體格等ノ相似タルモノヲ以テ孰レカ其實父タル
 ナ判タザル可カラズ然リトイヘル前件ノ如キ時日ヲ異ニ
 シテ同女ト交合スルモノハ道理上ニ於テハ該二男子ヲシ
 テ共ニ養育ノ責任ヲ負ハシムベキモノナリト雖^ロモ^ト 孩兒養
 育法ノ主義ニ從テ之ヲ論スルキハ産婦ノ明證スル所果ソ
 確實ナレバ之ヲ以テ其ノ孰レカ實父タルヲ判決スルヲ常
 トス又々時トノハ妊期ノ長短ニ依テ之ヲ決スルコトアリ何
 トナレバ人アリ其ノ交接セシ日ハ度外ニ隔遠ニアリト爲

シ尋常ノ妊期ヨリモ長カラシムル者ナシト云ヒ難ケレバ
 ナリ北亞聯邦ニ於テハ法律上ニ於テ往妊期ノ長延ニ涉ル
 者ヲ認許スルコトアリトイヘモ英國ニ於テハ否ラザル者多ク
 或ハ確證ヲ示シ其ノ然ル所以ヲ陳述スル者アルモ甚シク
 妊期ノ長延ニ過グルモノハ法律上ノ許サ、ル所タリ一千
 八百五十三年七月セルランハムニ於テ糾問アリシ事件ハ
 醫術上ニ於テ其交接ノ時日ハ分娩ノ前三百十九日ナルコ
 ト明證スルコト至レリ此時法廷ニ臨坐セシ一名ノ醫士ハ曾
 テ交接後三百十日ニシテ分娩セシ者ヲ檢察セシコトアリシ
 ト云フ

斯クノ如ク孩兒養育ノ責任ヲ其實父ニ負ハシメントスル
 ノ訴件ニシテ交接ト分娩ノ間隙八週日ニ足ラサルモノハ
 醫術上ニ於テ之ヲ明證スルコト至テ少シトス然レモ一名ノ
 婦人ニシテ二名ノ男子ト交接シテ孖兒ヲ分娩スル者ハ其
 二名ヲシテ各其ノ一兒ヲ養育スルノ責任ヲ負ハシムベキ
 ナリ今チ距ル數年前英國ニ於テ孩兒養育ノ訴訟アリ此時
 法官ハ審カコ之ヲ糾明シテ後チ其實父タルヘキ者ニ向テ
 養育ノ責任ヲ負フヘキ旨ヲ宣告セリ然ルニ該男ハ之ヲ拒
 テ曰ク余曾テ原告ナル該婦ト英國ニ於テ交接セシコトアリ
 然レモ該兒ハ佛國ニ於テ胚胎シ英國ニ來リテ分娩セシ者

ナルガ故ニ、縦令ヒ、英國中ニ生マルトイヘ、之ヲ審判スルハ英國法權ノ域外ニ在テ、佛國法廷ノ審判ヲ受クルヲ至當ナリトス、故ニ其宣告ニ服スル能ハザルナリト然レモ此異議ハ元ト正理ニ反スルモノナルヲ以テ該男子ハ終ニ出金シテ其兒ヲ養育スルノ責任ヲ負ハシメラレタリ何トナレバ凡ソ斯クノ如キ事件ハ胚胎ノ地ハ何レナルニセヨ分娩ノ地ヲ以テ其法律ニ從ハシムルヲ正當ナリト爲セバナリ例ヘバ英倫土ニ於テ已ニ交接胚胎シ爾後蘇格蘭ニ到リテ又々屢交接シ而シテ愛蘭土ニ來リテ分娩スルガ如キ者マタ無シト云ヒ難シ故ニ法律上ニ於テハ他ニ依ルヘキ證據ナ

キヲ以テ斯クノ如キ事件ニアルニ際シテハ必ス其交接ノ時ト處トヲ明カニシ兼テ又々其分娩ノ時ト處トヲ審カニシ以テ之ガ判決ヲ爲ササル可カラサルナリ

第三章 實父ノ死後ニ於テ分娩シタル孩兒 婦

人ニシテ先夫已ニ死シテ直チニ後夫ニ嫁シタル者アルハ或ハ孩兒ヲ分娩シテ其實父ノ孰レナルヤヲ決スルノ訴訟ヲ生スルコトアルモ未ダ知ル可カラザルナリ若シ再嫁シテヨリ十ヶ月ヲ經過シテ後夫ノ子ヲ分娩セバ其ノ先夫ノ子ナルヤ將ダ後夫ノ子ナルヤヲ決セサル可カラズ縦令ヒ幸ニ其兒ノ家督繼承ノ權利ニ關シテ一ツノ爭論ナカラシムル

モ孰レカ其ノ實父タルヲ断定セサル可カラズ然リ而シテ其ノ之ヲ決スル至テ難シトス何トナレバ凡ソ斯クノ如キモノハ一モ形跡ノ表スベキモノ無ケレバナリ先夫已ニ死シテ後テ六週間内ニ後夫ニ再嫁シテ分娩スル者アラハ必ス其ノ或ハ先夫ノ子タルヲ推思セシムルコ至ルベシ故ニ此疑念ヲ生スルコトナカラシメシハ孩兒分娩ノ時日ヲシテ最モ長延ナル妊期ノ後ニアラシメサル可カラズ最モ長延ナル妊期ノ後ニ分娩シタル孩兒ハ後夫ノ爲ニ胚胎セシ者タルコト明カナリ然レトモ斯クノ如キ性質ノ婚姻ヨシテ分娩スル者アルキハ世間從來ノ慣習ナルモノ大ヒニ之レ

ガ妨害ヲ爲スコトアルナリ若シ其孩兒ヲシテ最モ長延ナル妊期ノ後ヲニ分娩セシメ其ノ果シ前後両夫ノ中孰レカノ爲ニ胚胎セシ者ニシテ決シ他夫ト交通シテ出産セタル者ニアラサシムルモ後夫ト配偶中ニ分娩セタル者ハ大抵ミナ推測ノ其子トナスヲ常トス然レトモ其ノ配偶中曾テ一度モ交接セサルノ明證アルモノハ後夫ノ子ニアラズト爲スナリ若シ後夫ガ配偶中一回タリトモ媾合セシコトアラハ縱令ヒ其孩兒ガ先夫ニ相似タル所アリトイヘモ法律上ニ於テ已ニ後夫ノ子タルコトヲ認定シタル以上ハ如何トモス可カラサルノ慣習アリ是レ前ニ所謂ル慣習ノ大ニ審判上

ノ妨害ヲ爲ス所以ナリ然リ而シテ吾輩ノ見ル所ヲ以テスレ
ハ凡ソ孩兒ノ實父ヲ確認スルニハ必ス此等ノ外ニ又々數
多ノ確證ナカル可カラサルナリ

第四章 受胎ノ日限 凡ソ交接後受胎ノ日限ハ婦人ニ

ヨリテ各一ナラズ從來受胎ノ日限ヲ知ラント欲スルモノ
往其交合ノ日ヲ以テ之レヲ起算セリト雖モ最近ピスコッ
フ氏及ピラシボリスキ氏ノ研究發見スル所ニ依レバ交接
ノ時ニ際シ卵巢ノ位置ニ由リテ受胎ノ遲速アリトスビス
コッフ氏ノ説ニ曰ク卵子ハ月經ノ將サニ止マントスル時
機ニ臨ンデハ卵巢ヨリ降リテ卵管ニ出ヅ故ニ月經後十二

日内ニ交合スレバ必ス受胎スルモノナリ世間或ハ月經ノ
前後ニ拘ラズ受胎スル者アリト雖モ斯クハ如キ婦人ハ卵
子ノ定期ナク常ニ卵巢ヲ降ルハ慣習アル者ニシテ之ヲ以
テ一般ヲ推ス可カラサルナリト之ニ依テ是レヲ觀レバ受
胎ハ月經後ニ於テ始マルヲ常トス又々醫士レイド氏ノ實
驗スル所ニ依レハ受胎ハ月經ト月經ノ間隙ヨリモ月經後
未ダ日ヲ經サル時ヲ宜シトス其次ハ月經ノ將サニ期ニ臨
ントスル時ヲ以テ適應ナルモノト爲スガ如ク曾テラシボ
リスキ氏ハ佛京巴里ニ於テ一百人ノ妊婦ヲ檢察セタルニ
月經ノ中間ニ於テ受胎セシ者ハ僅カニ六名ニ過ギカリシ

ト云フ

輓近生理學上ニ於テ之ヲ研究セタルニ受胎ノ日限ハ交接
 ノ日ヲ以テ定ム可カラサルヲ知レリ凡ソ卵子ノ卵管ニ降
 下スルノ時間ハ毎回一ナラズ或ハ長キアリ或ハ短キアリ
 而シテ精液ノ管口ヨリ入りテ其卵子ニ合スルノ時間モ亦
 長短アルナリスコツフ氏及ビペランテン氏ハ其親シク實
 驗スル所ニ由テ精蟲ノ陰道ニ入りテ能ク其生ヲ保チ妊孕
 ノ力ヲ有スルコト七日間ヲ經ル者アルヲ知レリ是レ交接
 ト受胎ト時ヲ異ニスルヲアル所以ニシテ交合ノ後チ七日
 間ニ受胎スル者アルノ明証ナリ甚シキニ至テハ醫士リグ

ビー氏ノ記ス所ニ依レバ交接後第三十三日ニシテ胚胎セ
 ル者アリ又タ醫士デビルレーヌ氏ノ實驗セシ所ニ依レバ
 交接後第四十九日ニシテ受胎セシ者アリ故ニ吾輩ハ交接
 後或ハ五週間ヲ經テ受胎シ或ハ七週間ヲ過ギテ妊孕スル
 者ナシト云フ能ハサルナリ斯クノ如ク研究實驗ニ由テ交
 接ト受胎ノ時日ヲ異ニスルヲ發見スルニ至リシハ近時審
 判醫術上ノ一大進歩ニシテ千歲ノ迷夢ヲ一朝ニ破覺セシ
 モノナリ豈ニ盛ナリト云ハサル可ケンヤ

第五章 妊娠ヲ掩蔽スルノ罪科 蘇格蘭ニ於テハ婦

女ニシテ若シ妊娠中コレヲ掩蔽シ分娩後ソノ孩兒ノ人目

ニ觸レサルニ至リ又ハ死亡シタルヲ發覺スルキハ法律上ニ於テ之ヲ刑ス而シテ其ノ之ヲ掩蔽シタル罪跡ヲ明證スルモノハ外部ノ状態ニ依ルヲアリト雖モ其ノ首要ノ確證ト爲スモノハ醫術上ニ於テ其果ノ孩兒ヲ分娩シタルヲ認定スルノ一事ニ止マレリトス斯クノ如ク蘇格蘭ノ法律上ニ於テ妊娠ヲ掩蔽スル者ハ姦通ヨリ起ルモ私通ヨリ生スルモ又タ本夫ノ子ヲ胚胎シテ之ヲ爲スモ皆ナ共ニ許ス可カラサルノ罪科トス蓋シ凡ソ婦女タル者ハ各其子ヲ安全ニ分娩スルハ義務アリトノ主義ニ出デタルナリ故ニ妊娠ヲ掩蔽セント欲シテ孩兒ノ死ヲ致シ或ハ之ヲ秘匿シテ其在

ル所ヲ告ゲサルカ如キハ妊娠ソノ罪ヲ免ル可カラルナリ

第六章 妊娠ノ徵證 身體健全ノ婦女ニシテ妊娠スル

トアレバ忽チ月經ノ停止スルハ世人ノ普ク知ル所ナリ然リトイヘハ獨リ此一事ヲ以テ其徵證ト爲ス可カラズ其他數種ノ時狀アリテ等閑ニ看過ス可カラサルモノ多シ之ヲ史ニ徵スルニ會テ一回モ月經ノ流下セサル婦人ニシテ妊娠セシ者アリ若シ斯クノ如キ者アラバ其徵證ヲ月經ノ外ニ求メサル可カラズ又タ疾病老年等ノ故ヲ以テ月期ノ一定セサル者アリ胚胎後ナホ月經ノ流下スル者アリ而シテ此等ノ原因ヲ究明スルハ最モ難シトス一千八百五十六年一婦

人アリ同年ノ夏某人ニ嫁ス爾後其ノ月經ノ流下スルヲ以
 前ニ異ナラズ一千八百五十七年十月ニ至リ月經始メテ止
 ミ同年十二月ニ及テ妊期十分ナル健全ノ孩兒ヲ分娩セリ
 該婦ハ其腹部甚シク脹大ナルニ至ラズ其自カラ妊娠ヲ覺
 知セシハ僅カニ二ヶ月間ナリシト云フ月經ノ停止スルハ
 往子宮ニ變動ヲ生シタルニ原因スルヲ多シ故ニ必スモ
 其ノ停止スルヲ以テ妊娠ノ徵證トナス可カラサルナリ醫
 士モルヒー氏ノ報告スル所ニ依レバ曾テ胎中ニ八子ヲ妊
 孕シ十六ケ年ノ間毫モ月經ノ流下スルヲナクシテ終ニ之
 ヲ分娩シタル婦人アリト實ニ稀世ノ一大奇事ト云フベシ

醫士レイド氏ハ久シク月經ノ停止シタル婦人コノ尙ホ能
 ク妊娠セシモノヲ目撃シテ前後五回アリト又々醫士ホワ
 イトヘッド氏ハ妊期中平常ノ如ク月經流下シテ尙ホ能ク
 健全ノ孩兒ヲ分娩セシ者七名ヲ實檢セリ此等ノ實事ヲ以
 テ之ヲ推スルハ月經ノ停止セサル者ヲ以テ一概ニ妊娠ス
 可カラズト做シ難ク又々月經ノ停止セル者ヲ以テ必スシ
 モ妊娠シタリト做シ難シ而シテ其他妊娠ノ徵證ハ腹部ノ脹
 大ナルニ至リ乳房ノ形色ヲ變スル等數多アリト然レモ
 或ハ疾病ノ爲ニ斯クノ如クナルニ至ル者アルガ故ニ檢察
 醫士タル者ハ能ク其ノ疾病ニ因ルト妊娠ニ原スルヲ究明

セサル可カラザルナリ

第七章分娩ヲ掩蔽スルノ罪科 凡ソ醫術上ニ於

テ分娩ノ檢察ヲ要スル者ニアリ第一ニハ故意ヲ以テ孩兒ノ分娩ヲ掩蔽スル者アルキ第二ニハ胚胎ノ其未タ産期ニ臨マサルノ前之ヲ墮胎スル者アルキ則チ是レナリ英國ニ於テハ法律上ニ於テ妊娠ヲ掩蔽スルヲ罰セズトイヘ其ノ分娩ヲ掩蔽スル者ハ法律ノ許サバル所ナリ英王シヨウ第四世第九號ノ法令ニ載スル所即チ左ノ如シ其文ニ曰ク若シ婦人ニシテ孩兒ヲ分娩シテ或ハ之ヲ密埋シ或ハ之ヲ掩蔽スル者アルキハ二ケ年ニ越ヘサル懲役又ハ禁獄トス

而シテ其孩兒ノ死スル分娩ノ前ニ於テスルモ後ニ於テスルモ法律上ノ問ハサル所ナリト

英國ニ於テハ分娩ヲ掩蔽スル者ハ大抵不行跡ノ婦人ニシテ多クハ姦通等ヨリ妊娠シ分娩後孩兒ヲ絞殺密埋スル者ナリ而シテ之ヲ檢察シテ其證據ヲ得ルハ先ツ産婦ノ身體陰部ヲ細診シ次テ孩兒ノ支體ニ及バサル可カラズ然レモ其證據已ニ明白ナルニ至ラバ必スシモ兒體ヲ檢察スルヲ要セザルナリ一千八百三十七年英國オキスホルドニ於テ一婦人アリ妊娠分娩シテ後チ其孩兒ヲ殺シ其形跡ヲ掩ハンガ爲メ其支體ヲ火葬ス其事四方ニ傳達シ警吏ノ糺ス所ト

爲り終ニ處刑セラル斯クノ如キ者アルニ際シテハ必ス其
 之ヲ火葬セシ現場ニ就テ骨片ノ有無ヲ檢シ以テ其證據ヲ
 求メサル可カラズ人骨ハ之ヲ竈中ニ蒸燬スルモ原野ニ於
 テ火燬スルモ必ス其形ヲ失セサルモノナリ且ツ竈中ニ蒸
 燬セサルモノハ其色純白ニ化ス若シ之ヲ檢シテ其一片ヲ
 得バ以テ十分ノ證據ト爲ス可シ若シ又タ其爪齒ヲ得バ以
 テ孩兒姪期ノ満チタルヤ否ヲ知ルヲ得ベシ

若シ烈火ノ爲ニ支體分烈シ骨骼全ク灰ト化シ之ヲ檢スル
 ニ術ナキハ審カニ其灰ヲ試ミサル可カラズ之ヲ試ムル
 ニハ保多斯^{ボッター}ヲ以テ其場ニ撒布スベシ然ラハ骨灰ト木灰ト

混同スルモ人骨ノ灰ハ之カ爲ニ志亞仁^{シアニ}土^ドヲ生シ木灰ハ依
 然トシテ形狀ヲ變スルコトナシ然レモ若シ毛布靴等ノ如キ
 モノヲ共ニ火燬スルキハ其灰恰モ人骨ノ灰ト同一ノ形狀
 ナ表ハスガ故ニ或ハ之ヲ誤認スルノ恐アラシ何トナレバ
 人骨モ毛布獸皮モ共ニ志亞仁土^{シアニ}ヲ生スベキ窒素ヲ含有ス
 レバナリ故ニ灰中ニ一ツノ骨片ナクシテ或ハ毛布等ノ共
 ニ火燬セシ疑念アルキハ其中ニ磷酸石灰ノ多量アルヲ以
 テ人骨ノ火滅セシ證據ト爲ス人骨ノ灰ト毛布等ノ灰ハ磷
 酸石炭アルト否ヲサルトニ由テ之ヲ辨別ス可シト雖モ若
 シ獸骨ト人骨ト共ニ火燬セラル、コアルキハ之ヲ識別ス

ルニ由ナシ吾輩未タ之ヲ發見スルノ方術ヲ知ラサルナリ
 凡ソ婦人分娩ノ徵證ハ妊期ノ長短前後ニヨリテ大ヒニ差
 異アルモノトス婦女ニシテ若シ妊孕後第六ヶ月ノ前ニ於
 テ胎子ヲ産スルキハ之ヲ流産ト名ケ其ノ藥品器具ヲ以テ
 スルモノヲ墮胎ト名ク若シ第六ヶ月ノ後ニ至リテ分娩ス
 ル者アレバ之ヲ妊期不滿ト名クルナリ而シテ分娩ノ徵證
 ハ妊期愈不滿ナレバ愈分明ナラズトス故ニ若シ胚胎後第
 二三ヶ月ノ間ニ孩兒ヲ分娩シテ陰カニ之ヲ掩蔽スルモノ
 アルキハ婦人ノ陰部身體ヲ檢察シテ其證ヲ得ル最モ難シ
 何トナレバ滿期分娩シタル者ノ陰部身體ニ存在スル證徵

ハ斯クノ如キ婦人ニ於テ毫モ存スルコトナク乳房脹大ニ至
 ルニアラズ子宮口マダ擴開スルニ非サレバナリ然レモ妊
 孕後第二三ヶ月ニシテ流産或ハ墮胎スル者ハ必ス子宮ニ
 リ出血シ併セテ身體ノ疲勞ヲ表ハスガ故ニ形跡ノ依ルヘ
 キモノナキニ非サルナリ因テ苟モ形跡ノ疑フヘキモノア
 ルキハ速カニ之ヲ檢察セサル可カラズ若シ時日ヲ經過シ
 テ後チ之ヲ檢セバ初メ瞭然タル證跡モ終ニ見ル可カラサ
 ルニ至ル醫士モントゴメリ一氏ハ曾テ妊孕後第二ヶ月ニ
 シテ墮胎シタル者ヲ二十四時間ノ後ニ於テ檢察セシニ子
 宮ノ孔口ハ全ク平常ノ形狀ニ復シ陰道陰唇ハ毫モ異狀ヲ

表ハスコトナク只僅カニ其ノ乳房ノ稍脹大ニシテ色ヲ變
 スルノ一事ヲ以テ妊娠ノ徵ヲ示セシノミナリシト之ニ依
 テ是ヲ觀レバ妊娠後第三ヶ月ノ後ニシテ或ハ墮胎シ或ハ
 流産シテ陰カニ之ヲ掩蔽スル者アルキハ婦人ノ身體陰部
 ナ檢察シテ其徵證ヲ得ルノ術ナキナリ
 然ルガ故ニ斯クノ如キ者アルニ際ニ能ク其徵證ヲ檢出セ
 シト欲セバ滿期分娩シタル者ノ徵證ニ比シテ之ヲ求メサル
 可カラズ第三ヶ月後妊期未滿ニシテ分娩シタル者ノ状態
 ト妊娠後滿期ニシテ分娩シタル者ノ形狀ハ固ヨリ差異ナ
 キ能ハストイヘヒ滿期分娩スル者ニ准シテ之ヲ比較スル

此ハ第三ヶ月後妊期未滿ニシテ分娩シタル者ノ形狀ハ自
 カラ推知セラルベキナリ

第八章 分娩ノ徵證 凡ソ分娩シテ甚ク時日ヲ經過

セサル者ハ身體疲勞シテ面色青白ナリ両眼ノ周圍ハ黒藍
 ノ纖維羅織シテ容貌自カラ衰弱ス然レヒ産後ノ状態ト病
 後ノ状態ハ相似タルコト少カラサルヲ以テ決シテ輕卒ニ之
 ナ檢察ス可カラズ健全壯體ノ婦人ニシテ俄然コノ状態ヲ
 現ハスニ至ル者ハ大抵分娩ノ致ス所ナリト知ルベシ産後
 已ニ第三四日ニ至ラバ乳房ノ状態忽チ變シ其形脹大ニシ
 テ乳頭ハ周圍ノ纖維黒藍ノ色ヲナスニ至ルベシ

第一ニハ腹部ノ表皮ハ秋波ヲ生シテ重疊シ若シ外面ヨリ
 手ヲ以テ下腹ヲ撫擦スレバ子宮ノ圓形ニシテ脹大ナルヲ
 覺知スベシ而シテ子宮ノ大小ハ之ヲ檢察スル時刻ノ遲速ニ
 依リテ大ヒニ差異アルナリ醫士モンローゴノリース氏ノ説
 ニ曰ク凡ソ、婦、女、分、娩、シ、テ、未、タ、時、日、ヲ、經、サ、ル、者、ハ、其、陰、部、ヨ、
 リ、下、腹、ハ、中、心、ニ、達、ス、ル、黒、線、ア、リ、テ、其、周、圍、ニ、蟠、縮、ス、ト、然、レ
 此、之、ヲ、以、テ、一、般、ヲ、推、ス、可、カ、ラ、ズ、曾、テ、十、歲、ノ、幼、女、ニ、シ、テ、斯
 ク、ノ、如、キ、狀、態、ヲ、現、ハ、シ、タル、者、ア、リ、又、タ、子、宮、腫、ヲ、患、ヒ、タル
 婦、人、ニ、シ、テ、恰、モ、前、狀、ノ、如、キ、者、ア、リ、シ、ト、云、フ、檢、察、醫、士、タル
 者、宜、シ、ク、茲、ニ、其、意、ヲ、注、シ、ク、ベ、シ

第二ニハ陰門ノ腫大ニシテ裂傷ヲ留メ且ツ其周圍ニ多少
 ノ血痕アルモノ亦タ分娩ノ徵證トス而シテ子宮口ノ開發シ
 テ未タ密塞セズ其周圍ノ柔軟ナルモノアルヲ見ハ其徵證
 愈確實ナリトス

第三ニハ惡露^{ロヂヤ}ノ流下スルヲ以テ其ノ徵證トス此汚液ハ分
 娩後直チニ流下スルモノニシテ其色ハ鶯色ナルアリ或ハ
 青色ナルアリ其臭氣ハ一種奇異ニシテ分娩ノ形跡ヲ示ス
 一大徵證ナリ然レモ其ノ流下スルハ産後二週間ニ過キサ
 ルヲ常トス

分娩ノ徵證トスヘキモノ大略斯クノ如シ然リトイヘモ苟

モ之ガ檢察ヲ惰リテ時間ヲ遲延スルトキハ遂ニ得ヘカラ
 サルニ至ル殊ニ壯健ナル婦女ハ分娩後日ナラスンテ平常
 ニ復スルガ故ニ少シク時日ヲ經過セハ一ツモ形跡ノ證ス
 ベキモノナキナリ故ニ之ヲ檢察スルコト愈速カナレハ其
 證跡愈明カナリトス醫士モントゴメリー氏ハ曾テ滿期分
 娩後第五日ニ至リタル婦人ヲ檢察セシニ容貌全ク平常ノ
 如ク子宮ノ孔口ハ密塞シテ堅硬ナリシニ因リ大ヒニ驚駭
 セリト云フ一千八百五十九年三月十二日刊行〔メデイカル、タ
 イムス、エンド、ガゼット〕新聞ニ登錄スル所ニ依レバ受胎後
 日ヲ經スンテ流産或ハ墮胎スル者ハ大抵同時ニ其胎盤ヲ

流出セザルナリト

偽テ分娩シタリト稱道スル者アルカ又ハ孩兒ヲ分娩ノ其
 ノ家督繼承ノ權利ニ關シ法廷ヲ煩ハス者アルカ或ハ婦女
 ノ不行跡ニ付テ眞偽ヲ判スルヲ要スル者アルキハ醫士ヲ
 シテ審カコ之ヲ檢察セシメサル可カラズ縱令ヒ時日ヲ經
 タル者トイヘモ其子宮及ビ腹部ノ状態ヲ見ハ多少ノ形跡
 ナ留メサルニアラズ殊ニ子宮ノ状態ニ至リテハ十八十異
 ニシテ一様ナラズ故ニ止タニ此一事ヲ以テ速斷ス可カラ
 サルナリ曾テ一回モ分娩セシコトナキ婦人ノ子宮口ハ稍宛
 曲ノ魚口ノ如ク屢ニ分娩セシ婦人ノ子宮口ハ長延直伸シテ

其ノ陰唇ハ至テ厚ク且ツ子宮ノ口幹脹大ニシテ堅硬ナラ
 サルナリ然レモ月經ノ期ニ方テハ處女トイヘモ子宮口ノ
 狀態大ヒニ變更スルモノナリ若シ陰道密塞シ或ハ處女膜
 ノ未タ破裂セサル者アルモハ之ヲ以テ分娩セサルノ証據
 トナス可シト雖モ止タコ未裂ノ處女膜ノミヲ以テ其証ト
 爲ス可カラサルナリ何トナレバ時トシテ受胎ノ初ニ於テ
 處女膜ヲ破裂セズシテ尙ホ能ク墮胎スル者アレハナリ

第九章 妊期ノ長短

凡ソ妊娠ノ期限ヲ大別シニツト
 ナス其ノ受胎後第三十八週間前ニ係ルモノヲ短期ト稱シ
 四十週間後ニ渉ルモノヲ長期ト名ク而シ其期ノ長短ニ拘

ラズ醫術上ニ於テ詳カニ孩兒ノ胎中ニ在リシ時限ヲ了知
 セント欲セハ必ス其發育ノ如何ヲ察セサル可カラズ其最
 モ短キモノト最モ長キモノハ發育ノ形狀ニ依リテ容易ニ
 之ヲ知ルヘシト雖モ其中間ニ在テ分娩スル者ハ短期ト爲
 ス可キヤ將タ長期ニ屬ス可キヤ明了ニ其限界ヲ區別スル
 極メテ難シトス例ヘハ第七ケ月ニシテ分娩シタル孩兒ノ
 形狀ハ明カニ之ヲ認定スルヲ得ベシトイヘモ今マ第八ケ
 月ニシテ分娩シタル孩兒ト第九ケ月ニシテ分娩シタル孩
 兒ヲ對比シテ其前後ヲ辨別スルハ尋常容易ノ爲シ得ベキ
 所ニアラサルナリ醫士ブルンズ氏曰ク受胎後第九ケ月ヨ

リ、二週間前ニシテ、妊期満チ、發育足リテ、十分健全ナル孩
兒ヲ分娩スルヲ得ベシト是レ誠ニ實驗上ノ確認ニシテ衆
醫ノ共ニ其意見ヲ同フスル所ナリ又々醫士デヒルレリ
氏ハ其自カラ經歷セル所ノ實驗ヲ以テ妊期ノ長短ニ由リ
孩兒秤量ノ各相異ナル所以ヲ示ス、左ノ如シ

第二百二十九日ニシテ産ル者ハ平均四磅六十

第二百四十六日ニシテ産ル者ハ平均四磅八十八

第二百五十七日ニシテ産ル者ハ平均六磅六十八

第二百六十七日ニシテ産ル者ハ平均七磅七十一

第二百七十日ニシテ産ル者ハ平均六磅八

第二百七十二日ニシテ産ル者ハ平均七磅三

第二百八十三日ニシテ産ル者ハ平均六磅零

之ニ由テ是ヲ觀ンバ第四十週間ヲ經テ分娩シタル孩兒ノ
秤量ハ第三十七週間ノ妊期ニシテ分娩シタル者ヨリモ僅
少ナリトス而シテ第三行ニ記スル六磅六十八ノ秤量ヲ以テ
妊期満チ發育十分ナル孩兒ノ平均秤量トナスナリ故ニ婚
姻後第八ヶ月ニ至リ分娩シタル者ニシテ本夫ノ子タルア
リ第九ヶ月ニ至リ分娩シタル者ニシテ密夫ノ子タルアリ
テ未ダ醫術上ニ於テ之ヲ明証スルノ術アラズ是ヲ以テ証
據ヲ形跡上ニ求メズニ必ス心理上ニ求メサル可カラズ若

否テサレハ曖昧ナル孩兒ノ實父ヲ認定シテ其ノ姦夫ノ
 子ヲリ本夫ノ子タルヲ証明スルノ法ナキナリ
 子兒ノ分娩ニ至リテハ時トノ甚シキ差異ヲ生スルコトアリ
 醫士ウエスト氏ガ嘗テ實驗セシ所ニ依レバ初胎兒ハ僅カニ
 一磅半コソ第二兒ハ其秤量三磅ヲ越ヘ其姪期即チ胎中ニ
 在ルノ間ハ同一ナリシ者アリ又一千八百五十年二月廿三
 日刊行(メデカル、タイムズ)新聞ニ子兒ニノ其一ハ二磅四分
 一アリテ他ノ一ツハ二磅四分三アリシ者ヲ登錄セリ
 最モ短キ姪期ニシテ分娩ニ能ク其生命ヲ全フスル者ハ受
 胎後何ケ月以内ヲ以テ其限界トナスヤノ疑問ハ審判醫術

上ニ於テ第一緊要ナルモノトス而シテ第七ケ月ニシテ分娩
 シタル孩兒ハ却テ第九ケ月ニシテ分娩シタル者ヨリモ其
 生ヲ全フスルモノ多シ曾テ佛國ニ於テ第四ケ月半ニシテ
 分娩シ醫士マイソンネイフ氏ノ診察ニ由テ數月ソノ生命
 ナ保存セシ者アリト云フ
 姪期ノ長短ハ婦人ノ品行如何ヲ知ルニ於テ往々之ヲ證ス
 ルノ方便トナルコトアリ一千八百五十一年三月英國ニ於テ
 マンレアン氏ノ檢察セシ事件ハ初メテ本夫ト交接セシハ
 一千八百四十七年十二月二十二日ニシテ其婦人ノ孩兒ヲ
 分娩セシハ一千八百四十八年七月九日ナリ而シテ醫術上ノ

證スル所ニ依レバ其ノ孩兒ノ胎中ニアルコト正ニ九ヶ月ニシテ身體健全發育十分ナル者ナルコト明白ナルニ至レリ是ニ由テ該婦ノ姦通セシ証跡ヲ得タリト又タ一千八百五十一年三月ハースコット氏ノ檢察セシ訴件ハ本夫ハ久シク他邦ニ在リテ一千八百四十九年十一月二十四日家ニ歸リ其婦人ハ一千八百五十年五月十八日發育十分ナル一孩兒ヲ分娩セリ是亦タ本夫ノ不在中ニ於テ該婦ノ密夫ト姦通胚胎セシ確証トナリタリ

一千八百五十二年五月ハウキンズ氏ノ臨坐檢察セシ事件ハ本夫ハ一千八百五十年五月十六日ヨリ一千八百五十一

年三月二十三日マテ他邦ニ在寓ノ其間一回モ交合セシコトナシ然ルニ其婦ハ一千八百五十一年六月二日ニ至リ姦期満チ發育充分ナル一孩兒ヲ分娩セリ若シ之ヲシテ假リニ本夫ノ子ト見做サバ其ノ姦期ハ一ヶ年ト十六日ナルベシ否ヲサレバ僅カニ七十一日トナル因テ其婦人ノ姦通胚胎セシコト全ク明白ニ歸スルニ至リ而シテ此事件ニ付キーツノ奇怪ナルモノハ本夫ハ歸宅シテ其分娩前五分時間マテハ枕席ヲ共ニシ未タ其姦娠ナルヲ知ラズ本夫ノ不在中常ニ該婦ノ側ヲニ待坐セシ下婢ノ如キモ毫モ其容體ノ常ニ異リテ姦娠セシ形狀アルヲ悟ラカリシト之ニ由テ是ヲ觀

レハ妊娠中ナホ能ク其状態ヲ掩蔽スル者アルヲ知ルベシ
 其レ然リ而シテ妊期ノ甚シク長延ニ渉ルモノ亦タ審判上ノ
 難題ヲ醸成スルコトアリ世間有名ノ醫士輩ハ常ニ曰ク凡ソ
 妊娠ノ期限ハ四十週間ハ外ニ出ツ可カラズト而シテ産科醫
 士中ソノ實驗スル所ニ依テ其說ヲ駁撃シ以テ架空探ルニ
 足ラスト爲ス者アリト雖モ未タ區々タル二三ノ實驗說ノ
 ミチ以テ之ガ限界ヲ定ム可カラサルナリ必ス古來數名醫
 ノ實驗セシ所ノ確報ニ依ラサル可カラズ

産科書中載スル所ノ報告ヲ見ルニ第四十二週間ニ至リ分
 娩スル者アリ第四十三週間ニ及テ出産スル者アリ或ハ第

四十四週間ノ長キニ渉ル者アリ醫士モルヒー氏ハ之ヲ平
 均シテ三百零一日即チ四十三週間ヲ以テ妊期ノ中度ト爲
 シタリ醫士リー氏ハ二百八十七日ニシテ分娩セシ者ヲ檢
 察シ醫士ウイレルム、ホントル氏ハ第四十二週間ニ至リテ
 分娩セシ者ヲ檢察シ醫士モントゴソリー氏ハ第四十四週
 間ニシテ分娩セシ者ヲ檢察セシコトアリ而シテ醫士メルリ
 マン氏ハ曾テ自カラ檢察セシ一百十四人ノ妊婦ノ妊期ヲ
 集録シ以テ一面ノ表トナシタリ此表ハ實驗家ノ大ヒニ信
 憑スル所ニシテ月經ノ停止セシ日ヨリ起算シ孩兒ノ發育
 充分ナルモノナリ今左ニ之ヲ掲載ス

第三十七週間ニシテ分娩セシ者 三人

第三十八週間ニシテ分娩セシ者 十三人

第三十九週間ニシテ分娩セシ者 十四人

第四十週間ニシテ分娩セシ者 卅三人

第四十一週間ニシテ分娩セシ者 廿二人

第四十二週間ニシテ分娩セシ者 十五人

第四十三週間ニシテ分娩セシ者 十人

第四十四週間ニシテ分娩セシ者 四人

之ニ由テ醫士メルリーマン氏ハ凡ソ妊期ハ月經停止ノ後

ヲ第四十週間ニ至リテ完全ノ地ニ達スベキモノナルヲ知

レリ又ター一千八百四十四年醫士モルヒー氏ハ其自カラ檢
 察セシ所ノ一百八十二人ノ妊婦ニシテ月經停止ノ日ヨリ
 妊期ヲ起算セシ者ヲ列記シテ表トナスヲ左ノ如シ

第三十三週間ニシテ分娩セシ者 五人

第三十四週間ニシテ分娩セシ者 三人

第三十六週間ニシテ分娩セシ者 六人

第三十七週間ニシテ分娩セシ者 十一人

第三十八週間ニシテ分娩セシ者 十二人

第三十九週間ニシテ分娩セシ者 廿四人

第四十週間ニシテ分娩セシモノ 廿五人

第四十一週間ニシテ分娩セシ者 卅二人

第四十二週間ニシテ分娩セシ者 廿五人

第四十三週間ニシテ分娩セシ者 十九人

第四十四週間ニシテ分娩セシ者 九人

第四十五週間ニシテ分娩セシ者 十一人

以上記載スル所ハ月經停止ノ日ヨリ起算セシモノナリト
雖モ月經ハ時トシテ妊娠ナラサルニ際シテ中止スルコトアリ而
リ或ハ妊娠中ニ於テ不時ニ屢月經ノ流下スルコトアリ而
シ醫士カットウエー氏ノ報告スル所ノ妊期ノ長延ナル事
件ハ近時最モ著明ナルモノトス一農夫ノ妻ニシテ年齢三

十六ナル婦人アリ自カラ一千八百五十六年九月中ニ分娩
スヘキ時期シ同氏ノ診察ヲ乞フ其月經ノ停止セシハ一千
八百五十五年十二月ナリ同氏ハ一千八百五十六年九月中
旬ニ至リ産期ヲ催シタルノ徴效アリシヲ以テ該婦ヲ診察
セシニ腹痛極メテ酷クシカリシモ只粘液ト血液ノ混同シ
タルモノヲ流下セシノミナリシ而シテ一千八百五十六年十
一月十九日ニ至リテ一ツノ女児ヲ分娩セリ尋常妊期ヲ算
スルノ法ニ從テ之ヲ計算スルキハ該婦ノ妊期ハ三百三十
日即チ四十七週間一日トナルナリ
醫士レイド氏ガ多年ノ實驗ニ由テ報告スル所ニ依レバ月

經停止後第二百九十四日交接後第二百七十八日ニシテ分
 娩セル者アリ或ハ月經停止後第二百七十八日交接後第二
 百七十六日ニシテ分娩セル者アリ或ハ月經停止後第二
 百七十七日ニシテ分娩セル者アリ或ハ月經停止後第二
 百七十九日ニシテ分娩セル者アリ是レ妊期中ノ最モ短キモノトス
 又タ醫士レイド氏ハ妊期ノ長短ニ關シ數年來ノ經歷ヲ以
 テ其所見ヲ確陳シテ曰ク第一、妊娠ノ期日ハ凡テ其長短ヲ
 確定シ難キモノトス其ノ變化常ナキ猶ホ獸類ト均シキモ
 ノアリ。第二、然レモ其長短ハ甚シキ變化アルモノニアラズ

妊期ヲ算スルニ月經停止ノ日ヨリセズシテ交接胚胎ノ日
 ヨリ起算スルモノヲ最モ正確ナリトス第三、凡ソ妊期ノ長
 短ヲ平均スレバ大約二百七十五日ニシテ二百七十日ヨリ
 少カラズ二百八十日ノ上ニ出テズ第四、妊期ハ二百九十三
 日ノ上ニ出テタル確證ヲ目撃セシヲ第五、佛國民法ハ
 三百日ヲ以テ妊期ノ定限トシ、普國ノ法律ハ三百零一日ヲ
 以テ其定限トナシ、其外ニ出テタルモノハ之ヲ認許セズ惟
 ハ此ニ此ニ法共ニ緩寬ナルモノハ如シ第六、月經停止ノ日ヲ
 以テ妊期ノ長短ヲ卜スルハ尋常ノ方法ニシテ固ヨリ精密
 ナリ、期ス可カラズ蓋シ之ニ由ルキハ往々過誤多クシテ只分

娩、ノ、日、ヲ、臆、測、ス、ル、ハ、方、便、ト、ナ、ル、ニ、過、キ、ズ、第、七、凡、ッ、分、娩、ハ、
月、經、停、止、ノ、後、ヲ、第、四、十、週、間、ヲ、以、テ、最、モ、多、シ、ト、ス、而、シ、テ、第、四、
十、一、週、間、コ、レ、ニ、次、ク、ナ、リ、ト

醫士 ドンカン 氏ハ一千八百五十四年蘇京以丁堡 刊行(モソ
スリ) シヨルナル 新聞中ニ妊期ノ長短ニ關シ左ノ決論ヲ
掲載ス第一ニ曰ク凡、ッ、妊、期、即、チ、胚、胎、ト、分、娩、ノ、間、隙、ハ、精、密、
ニ、確、定、ス、可、カ、ラ、サ、ル、モ、ノ、ト、ス、第、二、ニ、曰、ク、交、接、ト、分、娩、ノ、間、
隙、ハ、平、均、二、百、七、十、五、日、ト、ス、第、三、ニ、曰、ク、交、接、ト、分、娩、ノ、平、均、
間、隙、ハ、元、ト、依、ル、ベ、キ、基、礎、ナ、シ、ト、雖、ヒ、甚、シ、キ、變、化、ヲ、生、ス、ル、
モ、ハ、ニ、ア、ラ、ス、第、四、ニ、曰、ク、尋、常、ノ、妊、期、ヲ、超、越、セ、ル、確、證、ハ、未、

カ、之、ヲ、得、ス、ト、イ、ハ、ヒ、蓋、シ、三、四、週、間、ヲ、超、過、ス、ル、ハ、証、據、ハ、得、
難、キ、ニ、ア、ラ、サ、ル、ナ、リ、ト

一千八百四十七年英國ニ於テ其妻ノ密夫ト姦通セシコ
ルヲ以テ離婚セシコト法廷ニ出訴セル者アリ此時本夫ノ
離婚ヲ主張スル所以ノ要旨ハ其妻ノ妊娠十二ヶ月ノ上ニ
出テタルノ一事ニ在リテ若シ其産ム所ノ孩兒ヲシテ自己
ノ子タラシメシニハ必ス胚胎シテヨリ十二ヶ月ノ内ニア
ラサレ可カラサルコトヲ述ヘタリ原告人ナル彼ノ本夫ハ家
郷ヲ去リ其妻ニ別レテヨリ十二ヶ月ノ間寢食ヲ共ニセサ
リシコト明白ナルヲ以テ醫士 ルツシング トン 氏ハ妊期ノ如

何ヲ論セズ已ニ其ノ寢食ヲ共ニセサルノ確証アルニ由リ
毫モ孤疑ノ色ヲ現ハスナク直ニ離婚スベキ理由アル
ヲ確陳セリト云フ

第二篇 家督繼承論

第十章 孩兒家督繼承ノ權利

凡ハ法律上ニ於テ認
許シタル夫婦ノ間ニ生シタル孩兒又ハ本夫ノ死後滿期子
娠シタル孩兒ハ英國ノ憲法ニ於テ本夫ノ子トナシ其家督
ヲ繼承スルノ權利ヲ有セシム然リトイヘモ若シ其ノ實分
ニアラサルヲ表示スベキ確証アル者ハ之ヲ繼承スベキ權
利ナシトス而シテ其ノ眞偽ヲ斷定スルハ固ヨリ醫術上ノ證

跡ニ依ラサル可カラスト雖モ止クニ此一證ニノミ是レ依
ルモノハ古來稀ニ見ル所ニシテ多ク聞カサルトコロナ
リ孩兒己ニ分娩シテ其ノ家督繼承ノ權利未タ確定セサル
モノハ其胚胎ヲ姦通ニ原因スル者多シ其權利ツイニ定ラ
ズ之ヲ法廷ニ告訴シ決テ法官ニ仰クニ至テハ往々其孩兒
ヲシテ正當ノ子タラシムルノ弊ナキ能ハザルナリ故ニ其
證跡ヲ醫術上ニ求ムルノミナラズ亦タ之ヲ心理上ニ求メ
ザルル可カラズ英國ノ古法ニ依レバ夫婦ノ間ニ孩兒ヲ分
娩シ本夫ハ足ヲ海外ニ留メス且ツ身體健全ニシテ交接ス可
カラサルハ確證ナキ者ハ之ヲ正當ノ子ト爲シ家督繼承ハ

權利ヲ有セシム然レモ英國方今ノ法律ニ從ヘハ夫婦ノ間ニ孩兒ヲ分娩シテ若シ醫術上ヨリ其ハ本夫ノ子ニアラハルヲ確證シ或ハ其他本夫ノ子ニアラサルノ確證アルキハ正當ハ子ニアラスシテ家督ヲ繼承スルノ權利ナキモノトス而シテ其ノ醫術上ノ證據トハ老年又ハ癡疾ニ由リテ其陰莖交接ノ能力ヲ失スルカ或ハ若年ニシテ未タ春機發動ノ期ニ臨マサルモノニシテ心理上ノ證據トハ本夫ノ遠ク已ニ逝去セシカ又ハ存命ナルモ久シク他方ニ在テ交接セシトナキモノヲ云フナリ若シ孩兒ノ實父曖昧不定ニシテ之レヲ法廷ニ告訴スルニ至リテ本夫ノ久シク交接セサルノ

證據カ又ハ其婦淫行ノ證據已ニ明白ナルモノハ敢テ醫士ヲシテ之ヲ檢察セシムルヲ要セサルナリ夫婦各自カラ擇テ離婚シ其間モシ孩兒ヲ分娩スルトアラハ法律上ニ於テ未タ其離婚ヲ公認セサル間ハ本夫ノ子トナス然レトモ本夫ノ曾テ交接セサル確證アルキハ其子トナサルナリ一千八百四十九年一月一婦人アリ一名ノ男子ヲ被告トナシ其分娩セル所ノ孩兒ヲ以テ其實子ナリトシ養育ノ責任ヲ負ハシメシトシ法廷ニ告訴ス孩男ハ即チ其姦夫ナリ而シテ彼ノ婦人ハ已ニ本夫ト離別シ爾後三ケ年ノ間ソノ姦夫ト寢食ヲ共ニシ其第三年ニ於テ孩兒ヲ分娩セタル者ナリ法

廷ニ於テハ法官ハ該婦ノ姦夫ヲ被告ト爲シテ出訴スベキ理由ナキヲ知リタルガ故ニ之ヲ受理セザリシ何トナレバ其間本夫ノ該婦ト交接スベキ好機會アリシヲ以テ本夫人ヲシテ獨リ養育ノ責任ヲ負ハシムルヲ正當ナリトスレバナリ又々時トシテ醫術上ノ證據ニ依ラスノ孩兒ヲ正當ノ子ニアラズト爲スコアリ例ヘバ夫婦ノ離婚ヲ法律上ニ於テ公認シタル後ニ至リテ他人ノ子ヲ胚胎分娩スルガ如キ則チ是レナリ夫レ英國ノ法律ト蘇枯蘭ノ法律ハ孩兒家督繼承ノ權利ニ關シテハ一種異別ナル所アリテ英國ニ於テハ私通ノ孩兒ヲ分娩シ後チ夫婦トナルト雖モ私生ヲ以

テ論シ正當ノ子ト爲サズ維廉ウイリム第四世ノ法令ニ曰ク若シ已ニ子女ヲ分娩セシ婦人ヲ娶ル者アラハ該男ハ元ト該子女ハ實父ニアラズト雖モ之ヲ養育スル實子ノ如クセサル可カラズト然レモ法律上ニ於テ該子女ヲシテ正當ノ子トナシ其家督ヲ繼承スルノ權利ヲ有セシメサルナリ一千八百四十年八月バルゴールナル者アリ家督繼承ノ權利ニ關シ英國上院ニ控訴シ蘇枯蘭ノ法律ヲ以テ已ニ正當ノ子トナシタル者ハ英國ニ於テモ亦タ正當ノ嗣子ト爲リテ其父ノ家督ヲ繼承ギ遺產ヲ承ルヲ得ヘキコトヲ主張セリト云フ惟フニ蘇枯蘭ノ法律ハ之ヲ英律ニ比スレバ大ヒコ天理ニ適

合スル者アリ何トナレバ方今英國ノ法律ニ從ヘバ父母タル者モ不正ノ行跡アリテ刑律ニ觸ル、キハ其ノ家産ヲ官ニ沒収シ其子女ヲシテ之ヲ繼承スルノ權利ナカラシム然リ而シテ凡ソ家督繼承ノ權利ニ關シ法廷ニ出訴シテ其ノ是非曲直ヲ決セントスル者アルキハ醫術上ノ證據ヲ要スルヲ往々少シトセス

以上論述スル所ニ依テ之ヲ觀レバ英國ノ法律ハ胚胎ノ時日ヲ問ハスシテ單ニ分娩ノ時日ヲ論スルモノ、如シ蓋シ分娩ノ時日ハ得テ認定スベク胚胎ノ時日ハ得テ認定ス可カラサレバナリ而シテ家督繼承ノ權利ニ付キ訴訟ヲ起シタ

ル者アルキ醫術上ニ於テ其證據ヲ明カニスルヲ要スルモノ左ノ如シ

第一 姪期ノ長短ヲ明察スルコト

第二 本夫ノ身體陰具ヲ檢視シテ交接スベキ能力アルヤ否ヲ明知スルコト

第三 婦人ノ身體陰部ヲ檢察シテ其ノ胚胎スベキ體力アルヤ否ヲ判スルコト

然リ而シテ第一姪期ノ長短ハ概シテ一定シ難キモノニシテ或ハ短キニ過ルモノアリ或ハ長キニ過クルモノアリテ往々本夫ヲシテ其實父ト認メ難キニ至ラシムルコトアリ。第二

本夫ノ身體陰具ハ老年ニシテ交接ノ能力ナキモノアリ或
 ハ若年ニ過キテ未タ春機發動ノ期ニ臨マサルモノアリ或
 ハ天然ノ不具ニシテ交接ス可カラサルモノアリテ本夫ヲ
 シテ其實父ヲラシメサルニ至ルコトアリ。第三婦人ノ身體陰
 部ハ往々受胎ス可カラサルモノアリテ該婦ヲシテ其子ノ
 實母ヲラシメサルニ至ルコトアリ之ヲ再説スレハ其自カラ
 産ム所ナリト稱道スル孩兒ハ他人ノ子ヲ以テ代ヘタルモ
 ノニシテ即チ偽兒ナリト爲スニ至ルコトアルナリ

第十一章 復胎兒家督繼承ノ權利 凡ソ審判醫術

上ノコトニ關シテ説ヲ立ツル者ハ復胎兒ノ事ヲ論スルコト方

テ必ズ又タ其ノ家督繼承ノ權利ニ及バサル可カラサルナ
 リ夫レ復胎ツッセルラエチーシヨトハ前後時日ヲ異ニシテ孖兒ヲ胚胎ニ各充分
 ノ妊期ヲ經テ分娩スルモノヲ云フナリ例ヘハ茲ニ一婦人
 アリ已ニ一兒ヲ胚胎ノ後チ第三ヶ月ニシテ又タ一兒ヲ胚胎
 ス而シテ其初胎兒ハ第二兒胚胎後九ヶ月ニシテ滿期分娩シ第
 二兒ハ初胎兒胚胎ノ後チ第十二ヶ月ニシテ滿期分娩スルニ
 至ル者ノ如キ則チ是ナリ人或ハ曰フ抑モ復胎ハ事々ニヤ
 之チ小ニシテハ嫁婦ノ貞節如何ニ關スルノミナラズ孩兒
 家督繼承ノ權利ニ係ハリ之チ大ニシテハ一國社會ハ安寧
 幸福ニ關係スルモノナリト然リトイヘヒ吾輩コレヲ古今

内外ノ實蹟ニ徴スルニ未ク之ニ由テ論者ノ過慮スルガ如キ難件ヲ生セシモノアルヲ見ス今試ニ配偶中復胎スルノ婦人アラシムルモ苟モ他夫ト姦通セサルヨリハ豈ニ之ガ爲ニ概シテ其貞節ヲ失スルモノト爲ス可ケンヤ何トナレバ復胎ナルモノハ其源因スルトコロ止タニ姦通ニノミ止マラズ夫婦ノ間ニ於テモ必ス無シト云ヒ難ケレバナリ其ノ姦通シテ姦夫ノ子ト本夫ノ子ヲ復胎スル者ハ固ヨリ淫行ノ明證アリト雖モ配偶中本夫ノ子ヲ復胎スルハ毫モ其貞節如何ニ關係ナキナリ然リ而シテ左ニ述フル所ノ事件ノ如キハ最モ醫術上ノ檢察ヲ要スルモノトス曾テ一婦人ア

リ先夫已ニ死シテ後夫ニ再嫁ス而シテ其ノ先夫死シテ後チ第六ケ月ニシテ姦期ノ充分ナル一兒ヲ分娩シ又チ三ケ月即チ先夫ノ死後第九ケ月ニシテ姦期ノ満チタル一兒ヲ出產セリ凡ソ斯クノ如キモノハ醫術上ニ於テ其果ノ姦期ノ充分ナルヤ否ト先夫ノ子ナルヤ否ヲ鑑別セサル可カラサルナリ米國刊行「メデイカル」ガゼット「新聞」ヲ見ルニ二ケ月ノ間隙ニシテ子兒ヲ復胎セル者アリ或ハ三十二日ノ間隙ニシテ之ヲ復胎スル者アリ更ニ其ノ甚シキニ至リテハ僅カニ八日ヲ隔テ、復胎セル者アリ一千八百五十三年十一月十一日醫士ブロウン氏ガ「メデイカル」シヨナル「新聞」紙中ニ登錄

スル所ニ依レハ同時ニ復胎セル孖兒ニシテ其一ツハ第三
 ケ月ニ至リテ流産シ其一ツハ妊期十分ニ滿チテ安全ノ分
 娩チナセシ者アリト云フ

斯クノ如キ事件ニシテ孖兒共ニ妊期十分ニ滿チ其復胎ナ
 ルヲ明白ナル者トイヘモ其初胎兒ハ必ス之ガ証人タル者
 ノ面前ニ於テセサル可カラズ然ルモ其第二兒ノ子宮内
 ニ留リ在ルヤ否ヲ明知スルヲ得ベシ後夫ニ再嫁シタル
 婦人ニシテ先夫死シテヨリ通常ノ妊期内ニ孖兒ヲ分娩ス
 ル者トイヘモ後夫ノ未ダ一回モ交合セサルノ確証明明白ナ
 ルニ至ラサル間ハ後夫ノ子ト爲シ之ヲシテ其家督繼承ノ

權利ヲ有セシム當ニ其ノ妊期ノ滿チタルガ如クニシテ其
 實未ダ十分滿期ナルヤ否ヲ明カニスル能ハス且ツ孖兒各
 時日ヲ異ニシテ分娩シタルノ一事ノミヲ以テ其ノ先夫ノ
 子タルノ明証トナス可カラサルナリ然レモ孖兒各時日ヲ
 異ニシ或ハ之ヲ同フシテ尋常ノ妊期外ニ分娩スル者ハ現
 狀ノ証跡ニ依テ其ノ先夫ノ子タリ後夫ノ子タルヲ判別ス
 ベシ故ニ法律上ニ於テハ復胎タリ單胎タルヲ論ゼズ只ツ
 ノ妊期ノ長短如何ヲ問フノミ

第十二章復胎兒ノ分娩

世ニ眞正ハ復胎即チ同時
 ニ復胎スルモノハ果シアルヤ否ハ多年學士輩ノ辨論シテ止

マサル所ノ一大疑題ニシテ未タ確乎明了ノ定説アルヲ聞
 カサルナリ已ニ一兒ヲ妊娠シテ後ヲ僅少ナル時限ヲ經過
 シテ又タ一兒ヲ胚胎シスノ如クニシテ前後二度ノ胚胎
 ヨリ終ニ孖兒ヲ復胎スルニ至ルハ世間往々見ル所ニシテ
 敢テ奇ト爲スニ足ラズ所謂ル尋常ノ復胎兒ナル者則チ是
 レナリ今日ニ至ルマテ世ノ學士ハ初胎兒已ニ胚胎シテモ
 リニケ月ヲ經過スルノ後ハ第二兒ヲ復胎ス可カラサルモ
 ノト爲セリ蓋シ交接後第八日及び第十七日ノ前後ヲ以テ
 復胎スルニ最モ適應ナル時機ナリトス然レモ曾テ二名ノ
 男子アリ一ツハ前夫ト交接シテ後ヲ十七日ヲ經タル婦人

ト媾合シ一ツハ前夫ト交接シヨリ八日ヲ經過シタル婦人
 ト交通シ各一兒ヲ分娩シ其實父ノ孰レナルヤヲ糾明スル
 ノ訴件ヲ生シタル者アリタリ醫士ドンチ氏ノ説ニ曰ク精
 液ハ復胎力ニ自カラ限涯アリテ妊婦ノ陰道ヨリ分泌スル
 粘液ハ其ハ月ヲ疊ヌルニ從テ甚シキ酸氣ヲ帶ビ爲ニ精蟲
 ヲ撲滅スルガ故ニ其注射スル所ハ精液ヲシテ復胎ハ力ナ
 カラシムルナリト然レモ余輩ヲ以テ見ルキハ陰道ノ粘液
 ハ必スシモ妊娠ニ由テ其酸氣ヲ増スナカルベシ又タ醫
 士ホワイトヘッド氏ノ説ニ從ヘバ平常ニ於テハ陰道ノ酸
 液毎ニ子宮ヨリ分泌スル所ノ亞留加利液ト中化シテ害ヲ

ナスヲナケレトモ已ニ妊娠スルキハ其中化ノ作用漸ク止ム
 チ以テ妊娠後數月ヲ經過スル者ハ腹胎ス可カラサルモノ
 、如シ而シテ陰道ノ粘酸液ハ妊娠中何レノ時ニ於テ精蟲ヲ
 害スルモノナルヤ否ハ未タ詳カニ認定ス可カラズトイヘ
 ト後世必ス分析學ノ進歩スルニ從ヒ鍊磨研究シテ腹胎ノ
 舊說ヲ破リ更ラニ確然動カサルノ新說ヲ現出スルニ至ル
 ベシ

醫學博士ドンカン氏ハ一千八百五十三年五月六日刊行ノ
 「アツツシエーション、シヨルナル」新聞紙上ニ於テ妊娠シテ
 ヨリ二三ヶ月ノ間月經ノ流下スルコトニ關シ說ヲ作シテ曰

ク凡ソ妊娠後月經ノ子宮口ヨリ流下スル者ハ三ヶ月ノ外
 ニ出ツルコトナシ然リ而シテ其間ナホ復胎スル者アリト若シ
 初胎兒妊娠ノ後チ二三ヶ月ノ間ニ第二兒ヲ復胎スレバ仔
 兒分娩ノ間隙ハ四五ヶ月ノ差ヲ生スルモノトス故ニ斯ク
 ノ如キモノハ其子兒ノ同時ニ胚胎セサルヲ知ル可シ初胎
 兒已ニ妊娠スレバ時日ヲ經ルニ從テ子宮ノ孔口ハ自カラ
 密塞スルモノナリ然レトモ其未タ密塞セサルノ間ニ於テ交
 接スルキハ第二兒ヲ復胎スルコトアルベシ而シテ妊娠後何ケ
 月ニシテ子宮口ノ密塞スルヤ否ハ未タ精細ニ之ヲ認定ス
 ル能ハストイヘトドンカン氏ノ說ニ從ヘバ受胎後少クモ

二ヶ月の間、月經ハ流下スルヲアリト然ラバ子宮口ノ密塞スルハ蓋シ胚胎後二三ヶ月ノ間ニアルベシ今夫レドモカッ氏ノ説ク所ヲシテ果ノ信ナラシメバ初胎後僅カニ二ヶ月ニシテ第二兒ヲ復胎スル者アレシ然レモ吾輩未ダ斯クノ如キ者アルヲ目撃セサルナリ然リ而シテ同氏ノ説ニ從ハバ初交ト次交ト僅々二三日間ヲ隔テタル者トイヘモ復胎スルヲナシト云ヒ難シ然レモ孖兒ノ胚胎スルハ一回ノ交接ニ由ルニアラズノ前後時日ヲ異ニシテ交接姙孕スルノ致ス所ナリ

一千八百五十年醫士カルトン氏ガ米國ヒラデルヒヤ刊行

〔メデイカル、エキザミンチル〕新聞ニ報道スル所ノ文ニ曰クニ、十二歳ニシテ身體壯健ナル黒人種ハ一婦人アリ三兒ヲ分婉ス其ノ自カラ陳述スル所ニ依レバ、一千八百四十八年四月白人種ハ一男子ト交接シ翌日マタ黒人種ハ一男子ト交合ス爾後大約一週間餘ヲ經テ月經ハ流下全ク止ム而シテ、一千八百四十九年二月中旬孖兒ヲ分娩ス其ハ一ツハ黒人種ニ、其ハ一ツハ黒白交種ナリ是ニ於テ該婦ハ其孖兒ハ實父ハ各相異ナルヲ知レリト然リ而シテ斯クノ如キモノ豈ニ只コノ一事ノミコ止マランヤ醫士ラムスボサーム氏ノ報告スル所ニ依レバ前件ニ似類スルモノ歴々見ルベシ

凡ッ復胎ナルモノハ婦女ノ孖兒ヲ娠孕シ各滿期シテ前後
 兩度ニ分娩スルヲ云フナリ一千八百三十七年デーボルグ
 ノ醫士モビウフ氏ノ報告スル所ヲ見レバ復胎ノ性質一目
 瞭然タルベシ其文ニ曰ク一千八百三十三年身體健全ナル
 一嫁婦アリ年齢三十有五ニシテ同年十月十六日妊期滿チ
 テ健全ナル一女兒ヲ安産セリ而シテ該婦ハ曾テ數回分娩セ
 シ者ナルガ獨リ這回ノ分娩ニ至リテハ産後ナホ子宮内ニ
 活動スルモノアルヲ覺ヘタリ因テ之ヲ檢察セシニ子宮ハ
 腹奥ニ援上シテ幾ノド窺視ス可カラズ其口ハ全ク密塞シ
 テ第二兒ノ活動ナホ明カニ外部ニ傳響シ産後毫モ惡露ハ

流出スルヲナク又タ乳汁ノ分泌スルヲ見ズ乳房ハ依然ト
 シテ懸下シ少シモ熱氣ヲ發スルヲナシ同年十一月即チ初
 胎兒分娩後第三十三日ニシテ俄カニ又タ一女兒ヲ分娩セ
 リ其第二兒ハ妊期ハ超過シタル徴効ヲ現ハスヲナク孖兒
 共ニ身體健全セリトモビウフ氏コレヲ檢察セシニ體質健
 全ニシテ妊期已ニ滿チタルモノ、如シ同氏ハ此實驗ヲ以
 テ世ニ復胎ナルモノアルノ確證トセリ
 上文ニ述ブル所ノモノハ實事ヲ引証シテ復胎兒分娩ノ的
 例ヲ示シタルノミ固ヨリ以テ奇ト爲スヘキノ事件ニアラ
 サルナリモモビウフ氏曰ク彼ハ初胎兒ハ妊期滿チテ分娩セ

シ、者ニシテ第二兒ハ爾後三十日ニシテ出産シ初胎兒ヨリモ數日ヲ經テ受胎セシ者ナリト其レ然リ而シテ一兒ハ身體全具シ一兒ハ未ダ全具セサルモノ或ハ其ノ時日ヲ異ニシテ分娩スルモ身體ノ具備相均シキ者ノ如キハ世間マダ少シトセサルナリ然レモ上文ニ所謂ル妊期超過ノ徵效ナルモノハ吾輩未ダ之ヲ目撃セサルナリ古來醫士輩ノ確報スル所ニ依レバ三十九週間ヲ經テ分娩シタル孩兒ト四十三四週間ヲ過ギテ出産シタル孩兒ヲ鑑別シ又ハ妊期十分ニシテ分娩シタル二兒ヲ辨別スルハ最モ難シト爲ス凡ソ妊期ノ長短ハ婦人ニヨリテ大ヒニ差異アリト雖モ孖兒ヲ

復胎スル者ノ如キハ往々分娩ノ時ヲ異ニシテ各妊期ノ長短ナキ者アルハ人ノヨク知ル所ナリ

孖兒ヲ復胎スル所ノ婦女ニシテ一兒ハ已ニ流産シ一兒ハ猶ホ子宮内ニ留マル者ノ如キモ亦タ往々見ル所ニシテ敢

テ奇ト爲スニ足ラサルナリ一千八百三十九年蘇京以丁堡

刊行メデイカル、エソド、ソルゼリ、シヨルナル新聞ニ掲載ス

ル所ニ依レバ初胎兒ハ第三ヶ月ニシテ流産シ第二兒ハ身體全具シテ第九ヶ月ニ至リテ安産セル者アリ初胎兒ハ第四ヶ月半ニシテ流産シ後チ又々四ヶ月ニシテ健全肥大ナル第二兒ヲ分娩セル者アリ醫士チヒレフ氏ノ報告スル所

ニ依レバ會テ一婦人アリ初胎兒ハ娠期不滿ニシテ流産シ
 後チ六週間ヲ經テ健全ナル第二兒ヲ出産セシ者アリト云
 フ又チ子宮ノ一種異形ニシテ二房ヲ有シ止クニ其一隅ニ
 於テノミ胚胎セル者アリ之ニ加フルニ該新聞紙上ニ婚姻
 後第六ヶ月ニシテ四ヶ月ノ孩兒ヲ出産シ又チ四十週間ニ
 シテ娠期滿チタル仔兒ヲ分娩シタル一奇事ヲ登録セリ此
 時該婦ノ陰部ヲ檢察セシニ子宮陰道共ニ二個ヲ具有シ其
 兩陰道ハ各全ク道管ヲ異ニセリト米國ノ醫士ホーレルベツ
 キ氏ノ曰ク余ハ會テ六ヶ月ハ初胎兒ト娠孕後僅々六週間
 ニ足ラサル第二兒ヲ同時ニ分娩セル者アルヲ目撃セリト

又チ醫士ホーレ一氏ガ一千八百五十二年一月三十一日刊
 行(メデイカ、タイムス)新聞ニ記載スル所ニ依レバ受胎後
 未ダ時日ヲ經スシテ子宮ヨリ一ツノ肉塊ヲ産出シ後又チ
 數月ヲ經過シテ娠期十分ニ滿チタル一兒ヲ分娩セル者ア
 リ其兒ハ身體全具セリトイヘ且産後第三日ニ至リテ卒ニ
 死シタリト云フ

第十三章 異様兒ノ分娩 一千八百四十八年刊行(レ

ユニオン、メデイコール)新聞ニ記載スル所ヲ見ルニ埃及國ア
 レキサンドリアニ於テ實父ノ判然ナラサル異様ノ復胎兒
 ヲ分娩シタル一奇事アリ同國産ノ一婦人アリ娠孕後大約

八ヶ月ヲ經テ一體二頭ノ孩兒ヲ分娩ス其一頭ハ白色ニシテ其一頭ハ黑色ナリ双頭共ニ十分ノ發育ヲ受ケタルモノニシテ概スルニ黑人種ニ相似タル所アリ然レモ此孩兒ハ胎内ニ於テ已ニ死シテ分娩シ産婦モ亦タ日ヲ經スシテ終ニ死シタリ而シテ此時該地ニ滞在セル醫士アリウス氏ハ其一頭ノ白色ナルモノヲ檢察セシニ恰モ黑人種ノ肌膚中ニアル白斑ト其質ヲ同フスルヲ發見セリ該婦ノ本夫モ亦タ埃及産ノ者ニシテ其肌膚ハ鶯色ナリ惟フニ此婦人ハ該地ニ在住スル黑人種ノ役夫ト姦通セシモノナルベシト雖モ本夫ト姦夫ト同日ニ交接シテ同日ニ妊孕セシヤ否ハ未ダ

知ル可カラズ又タ其頭部ニ於テノミ黑白ツノ色ヲ異ニセシハ果シテ何ノ故タルヲ解ス可カラサルナリ

醫士シントヒライル氏ハ審判醫術ト異體論ノ相關シテ離ル可カラサル所以ヲ研究發見セリ而シテ異樣兒ノ分娩ニ付キ訴件ヲ生スルニ至テ稀レナリト雖モ醫士ニシテ法廷ニ臨ミ之ガ檢察ヲナス者ハ必ス常ニ其理ヲ研究セサル可カラサルナリ英國ノ法律ハ審カニ異樣兒ノ意義ヲ解釋セスト雖モロルドコック氏ノ説ニ從ヘバ異樣兒トハ人類ハ形體ヲ具備セサル者ニシテ縱令ヒ夫婦ノ間ニ生シタルモ其家督ヲ繼キ家産ヲ承ル能ハサルモノナリ云フナリト然レモ

身體ノ一部分ニ於テ不具異様ナル者ハ法律上ニ於テ家産
 ナ繼承ス可カラサル異様兒ト爲サ、ルナリ例ヘバ人類ノ
 形體ヲ具備スル者ニシテ手足ノ一種異様ナルモノ、如キ
 則チ是レナリ一千八百四十六年英京倫頓ニ於テ一體三足
 ノ異様兒ヲ縱覽セシメタルコトアリシト云フロルドコツク
 氏ノ説ニ從ヘバ法律上ニ於テ異様兒タルヤ否ヲ決スルハ
 必ス醫術上ノ證據ニ依ルベシ尋常ハ證人ガ述フル所ニ依
 ル可カラズ凡ソ證人ハ陳述スル所ハモハハ以テ審判上ハ
 考證トナスモ以テ其ハ確證ト爲ス可カラサルナリト而シテ
 近來異様兒ノ種類ヲ分テ數等トナシタルニモ檢察醫士ニ於

テハ毫モ益ナキノミ何トナレバ事毎ニ其ノ一種格外ナル
 所ヲ以テ之ガ類別ヲ爲サ、ル可カラスト雖モ檢察醫士ハ
 敢テ其種類等級ヲ明示スルヲ要セズ單ニ其ノ完全ノ人類
 ト異ナル所以ノ證據ヲ陳述スレバ以テ十分ニ其職務ヲ盡
 セリト爲スナリ古來法廷ニ於テ異様兒ノ訴件ヲ糾問セシ
 至テ少キガ故ニ法律上ニ於テ其何ノ種類ヨリ民權ヲ剝
 奪スベキヤ否ヤ未タ其區域ヲ確定ス可カラサルナリ異様
 兒ニ人體無頭ナルアリ一體二頭ナルアリ或ハ二體合一ナ
 ルアリ其他千差萬別一々枚舉スルニ遑アラズシントヒラ
 イルス氏ノ述フル所ニ依レバ方今歐米諸國ニ於テ異様兒

ナ大別シテ一頭二頭ノ二種トナシ一頭ニシテ異様變形ナル者ハ之ヲ一入ト見做スモノ、如シ而シテ其一體二頭ノ異様兒ヲ二人ト認ムルニ至リシモノハ凡ソ耶蘇教ヲ奉信スル國ニ於テハ教會堂ニ於テ洗禮ヲ行フトキ一頭毎ニ必ズ前後二回ノ式ヲ經ルニ源因スルナリ惟フニ二頭アレハ腦髓モ亦タ二個アリ已ニ二個ノ腦髓アラハ其思想意志モ亦タ二様ナラサルヲ得ストノ理由ニ出ルモノナランカ一千八百三十七年佛京巴里ニ於テ一體二頭ノ異様兒ニシテ漸ク成長シ壯年ニ及テ削刀ヲ以テ人ヲ故殺ス因テ刑事審廷ニ於テ死

罪ノ宣告ヲナシタリシガ其一頭半體ハ共ニ刑スベキ罪ナキヲ以テ終ニ之ヲ放免セシマアリ實ニ古今奇談中ノ最モ奇ナルモノト云フヘキナリ

一千八百十一年米國ニ於テ分娩シタル二體合一ノ異様兒ハ近世著明ナル者ニシテシヤムストウインスト名ク已ニ成長シテ後チ一千八百三十年英京倫頓ニ來リテ之ヲ縱覽セシム此時英國中ノ學士輩ハ四方ヨリ雲集シ之ヲ見テ皆ナ驚駭セリト云フ其容貌聲色ハ二體共ニ恰モ相似タルカ故ニ人ヲシテ孰レカ左體タリ右體タルヲ辨別ス可カラサラシム左右共ニ同時ニ傍人ト談話シ起居進退左右ニ同

一ナルガ故ニ之ヲ識別スルヲ甚タ難シ其兩體ハ腹部ニ於テ肉帶ヲ以テ結合シ外部ヨリ之ヲ見レバ兩體ノ腹内互ニ相通スルガ如シ然リ而シ民法及ビ刑法上ニ於テ其一體ノ所爲ヲ以テ他ノ一體ヲシテ其責ニ任セシム可カラズ何トナレバ其思想意志各相異ナレバナリ米國馬州ノ醫士フツヒールド氏ノ報告スル所ニ依レバ一千八百五十三年七月ニ至リ彼ノ二體合一ナルシヤムス、トウインスハ米國加州ノ北部ナルチエストルニ居テ定メ己ニ四十二歳ノ齡ニ及ビタレバ各其妻ヲ娶ラント欲シテ民法上ニ於テ一大議論ヲ生シタリ何トナレバ一人ニシテ二婦ヲ娶ルハ法律ノ許

サ、ル所ナレバナリ然レモ終ニ各體ヲ別個ト見做シ二名ノ姊妹ヲ娶ルコトヲ許スニ至レリ斯クノ如クニシテ二體各北亞聯邦ノ住民タル權利ヲ得シトイヘモ若シ一體ハ人ヲ故殺シ他ノ一體ハ敢テ之ヲ制止セザルコトアラバ刑法上ニ於テ必ス亦一大議論ヲ生スルニ至ルベシ若シ斯ノ異様變體ノ人ニシテ斯ノ罪ヲ犯スコトアラバ必スシモ刑罰ヲ他ノ無罪ナル一體ニ併セ蒙ラシムルヲ要セサルナリ當ニ刑法上ニ於テノミ然ルニアラズ民法教法ニ亦タ然リトス

第十四章 多兒ノ分娩 多兒ノ分娩ハ姦通私通ノ問

ニ生スルニアラサルヨリハ夫婦ノ間ニ於テスルモノハ吾輩未ダ會テ醫術上ノ證據ヲ要セシテアルヲ知ラサルナリ
 婦女ニシテ孖兒三兒ヲ同時ニ分娩スル者アルハ往々聞ク所ニシテ同時ニ四兒五兒ヲ分娩スル者ノ如キニ至テハ多ク之ヲ聞カサルナリ醫士ルツトル氏ノ報告スル所ニ依レバ一千八百四十年普魯斯國中ニ於テ、^{プロシヤ}出產シタル五十七萬四千二百九十、三ノ孩兒ノウチ孖兒ナル者六千三百八十一ニシテ三兒ナル者七十二ナリ四兒ナルモノハ僅カニ一ツ、^ハ六兒ナルモノハ亦一ツナリシト醫士ガウズリー氏ハ英國外科學校中ノ博物館ニ於テ一ツノ大ナル璃瓶中ニ五

個ノ女兒ト五個ノ男兒ヲ「アルコール」ニ浸シテ貯藏シタルモノアルヲ見タリ此ノ十兒ハ同時ニ分娩シテ卒ニ死シタルモノナリ又タ同氏ガ一友人ノ母ハ二十五年ノ間ニ前後二十八人ノ子女ヲ分娩セリト云フ一千八百四十九年醫士ルツセル氏ハ同時ニ五名ノ男兒ヲ分娩シ其最モ大ナルハ長サ六「インチ」ニシテ最モ小ナルハ長サ五「インチ」ナリシ者ヲ目撃シ醫士ヨング氏ハ同時ニ四人ノ男兒ヲ分娩セシ婦人ヲ診察セリ一千八百四十五年七月三十日醫士ブラツシ氏ハ二男二女ヲ併セ同時ニ四人ノ孩兒ヲ分娩シ各遂ニ成長シタル者アルヲ報告セリ此時實父ノ家督ヲ繼承セシ

ムルニ英國古來ノ習慣法ニ依リ其第一ニ分娩シタル者ヲ以テ長子トナシ之ヲシテ其家督ヲ繼ガシムルニ決シタリト云フ

第三篇 偽兒論

第十五章 偽兒ノ檢察 若シ婦人ニシテ偽テ孩兒ヲ

分娩シタリト爲シ同時ニ於テ他婦ガ人産出スル所ノ孩兒ヲ以テ自ラ其實子ナリト偽稱スル者アルキハ必ス其家督繼承ノ權利ニ關スルガ故ニ法律上ニ於テ醫工ヲシテ之ヲ檢察セシメ以テ其眞偽如何ヲ明斷セサル可カラサルナリ或ハ其孩兒已ニ胎内ニ於テ死シ或ハ肉塊等ノ如キモノヲ

分娩シタルキ他婦ノ孩兒ヲ以テ之ニ代ヘ又ハ女兒ヲ分娩シテ男兒ニ代ヘ男兒ヲ産出シテ女兒ニ代ヘ或ハ姦夫ノ胤ヲ胚胎シテ分娩シ而シテ本夫ノ子ト傲シ或ハ數男ト私通シシテ曖昧ノ子ヲ妊娠シ而シテ某人ノ子ナリト偽唱スル等ノ如キモ亦々法律上ニ於テ家督繼承ノ權利ニ大關係ヲ生スルモノニシテ往々惡漢等ノ合議共謀ニ出ツルコト多ク通常與ツテ之レガ媒酌ヲ爲ス者ハ大抵下等ノ産婆ナリ一千八百四十二年七月チエルセヤニ於テ此詐術ヲ行ヒタル者アリシガ其偽兒ノ死シタルニ由テ終ニ露顯セシコトアリ凡ソ斯クノ如キ事件アルニ際シテハ博識ノ醫士ヲシテ其

ノ分娩ノ虚實ト孩兒ノ眞偽ヲ檢察セシメハ果ノ其ノ偽詐ニ出デタルヤ否ヲ明カニスヘシ或ハ偽兒ノ年齢ト分娩ノ時日ト齟齬スル者ノ如キハ産後歲月ヲ經過シテ妄リコ詐術ヲ設ケタル者ニシテ醫術上ニ於テ之ヲ發見スルコト最モ易シトス一千八百四十五年英國ニ於テ死兒ヲ分娩シテ之ニ代ユルニ精工ナル木偶ヲ以テシ終ニ其偽詐ヲ發覺セラレタル者アリ愚モ亦タ甚ヒ哉又ター一千八百五十三年醫士チーベルス氏ノ記ス所ニ依レバヒツサルノ産婆ニシテシヤボート名クル者アリ陰カニ爲ニスル所アリテ一計ヲ設ケ其ノ看護スル所ノ産婦ニ向テ曰ク今汝ガ分娩シタル孩

兒ハ一體ニ頭ニシテ已ニ胎内ニ於テ死シタル者ナリ因テ汝ハ爲ニ陰カニ之ヲ埋匿セント既ニシテ其孩兒ヲ携テ去ル翌日マター兒ヲ抱テ其家ニ到リテ曰ク妾昨夜コハ一兒ヲ分娩セリト而シテ其言行ノ疑ハシキニ由リ産婦コレヲ警察署ニ告訴ス警吏忽チ來リテ産婆ヲ糾問スレトモ確ク執テ此兒ハ自カカラ産ム所ナリト稱シ自若トシテ動カズ因テ之ヲ刑事審廷ニ付シテ糾問セシムトイヘモ毫モ其實狀ヲ白セズ是ニ於テ數名ノ産婆ト外科醫ヲシテ之ヲ檢察セシメ及ビ近隣ノ常ニ之ト面接スル者ヲシテ近時ソノ妊娠セシ状態ヲ目撃セシヤ否ヲ尋問セシニ何レモ其ノ妊娠ノ

徴効ヲ見サルヲ以テ答フ斯クノ如クニシテ偽訴ノ罪跡已
 ニ明白トナリ終ニ禁獄七年ノ刑ニ處セラレタリト云フ
 曾テ佛國ニ於テ聾啞ノ一婦人アリ其夫ト密謀シテ偽兒ヲ
 設ク該婦ハ年齢四十二ニシテ婚姻セヨリ已ニ二十余年
 ナ経過セルモ未ダ一兒ヲ得ズ若シ斯クノ如クニシテ空シ
 ク歲月ヲ過セバ法律上ニ於テ嗣子ノ繼承スベキ部分ノ財
 産ヲ左右スレノ權利ヲ失スルヲ以テ本夫ニ議リ陽ハニ妊
 娠ノ状態ヲ表シ終ニ醫士及ビ産婆ノ診察ヲ受ケスシテ一
 兒ヲ分娩シタリト偽稱セリ蓋シ己ニ一名ノ家督ヲ繼承ス
 ベキ養子アリタリトイヘ比之ヲソ其家督ヲ繼ガシムルヲ

欲セサルノ思念ヲ生シタレバナリ此時該婦ノ知己友人等
 ハ已ニ六ヶ月前ヨリ其ノ妊娠シテ日ニ月ニ腹部ノ脹大ニ
 至ルヲ目撃シ且ツ屢教會堂ニ於テ卒倒セルヲ見タリト抑
 モ卒倒ハ妊娠中往々免ル可カラサルモノニシテ以テ妊孕
 ノ徴効ヲ表ハスヲ多シトス然リ而シテ之ガ養子タル者前件
 ノ狀ヲ具シテ之レヲ法廷ニ告訴シ其全ク偽詐ニ出テタル
 ナリ述ベタルニ因リ法官ハ一名ノ産婆ヲシテ之ヲ檢察セシ
 メタルニ果シテ該婦ハ曾テ妊娠セサル者ニシテ其ノ自カラ
 分娩シタリト稱道スル孩兒ハベイリンスト名クル者ノ子
 ナリシト明白ナルニ至リ終ニ處刑セラレタリ又ター千八

百五十年五月英國ニ於テ最モ狡猾ヲ極メタル偽兒ノ一大
訴件アリシガ幸ニ法官ノ明察ナルト老練ナルトニ由テ正
當ノ嗣子ヲシテ其ノ家督繼承ノ權利ヲ全フスルヲ得サ
シメタリト云フ

第十六章偽詐ノ分娩 往々狡猾ノ婦女ハ私通又ハ

姦通ノ末ニ至リ偽テ孩兒ヲ分娩シタリト稱シ或ハ情郎密
夫ニ向テ婚姻ヲ強促スルアリ或ハ其財産ヲ奪ハント欲ス
ルアリ或ハ世人ノ惠投施與ヲ得ント企ツル者アリ凡ソ斯
クノ如キ事件アルニ際シ終ニ法廷ヲ煩ハスニ至ラバ醫士
ヲシテ其眞偽如何ヲ檢察セシメサル可カラサル固ヨリ論

ナキナリ而シテ斯クノ如キ者ハ大抵近ク分娩シタリト主唱
スルガ故ニ其ノ眞偽虚實ヲ發見スル最モ易シトス若シ分
娩シテ數多ノ時日ヲ經過セリト陳述スル者アラバ醫術上
ノ檢察ト其時ノ事狀ニ依テ之ヲ決セサル可カラズ其詳細
ナルニ至テハカプロン氏ガ「メデイカル、ガゼット」新聞ニ載
スル所ノ論說ニ就テ之ヲ知ル可シ

第十七章偽詐ノ妊娠 詐ノ妊娠モ亦タ偽詐ノ分娩

ノ如ク往々婚姻ヲ強促シ惠投ヲ得ンガ爲メ狡猾ナル婦女
ノ企ツル所ナリトイヘ其ノ眞偽虚實ヲ鑑別スル更ニ易
シトス何トナレバ凡ソ斯クノ如キ偽詐ヲ企ツル者ハ大抵

妊娠ノ初ニ於ケルガ如ク之ヲ爲サズ將サニ分娩ノ期ニ臨
 ミタルガ如ク其容體ヲ偽裝スレバナリ而シテ陽ハニ二三ノ
 妊娠ノ徵證ヲ示ストイヘモ腹部ノ脹大ナルト乳房ノ状態
 ニ至テハ之ヲ偽裝スルノ術ナキナリ若シ醫士ヲシテ之ヲ
 檢察セシメバ其ノ詐術ハ忽チ明白ナルニ至ルベシ其ノ或
 ハ最モ狡猾ナル婦女ニ至リテハ一種ノ方術ヲ以テ下腹ヲ
 脹大ナラシメテ腹筋ノ紳縮ヲ以テ胎兒ノ活動ニ類似セル者
 アリ若シ斯クノ如キ者アルキハ昏迷水コロホルムヲ以テ之ヲ試ムレ
 バ其腹部ハ忽チ縮小シ遂ニ其詐術ヲ發覺スルヲ得ベシ斯
 ノ偽詐ヲ企ツル者ハ往々子宮病ニ罹リタル婦人ヲ以テ多

ント爲スナリ又々時トシテハ罪科ヲ犯シタル婦女ニシテ
 獄裏ノ苦役ヲ免レント欲シテ妊娠ヲ偽唱スル者アルナリ

明治十一年十二月十三日版權免許
明治十二年一月出版

(定價四拾錢)

譯者

東京府平民

松井順時

東京芝區柴井
町十六番地

出版人
兼發兌

東京府平民

家號土屋松井忠兵衛

東京芝區柴井
町十六番地

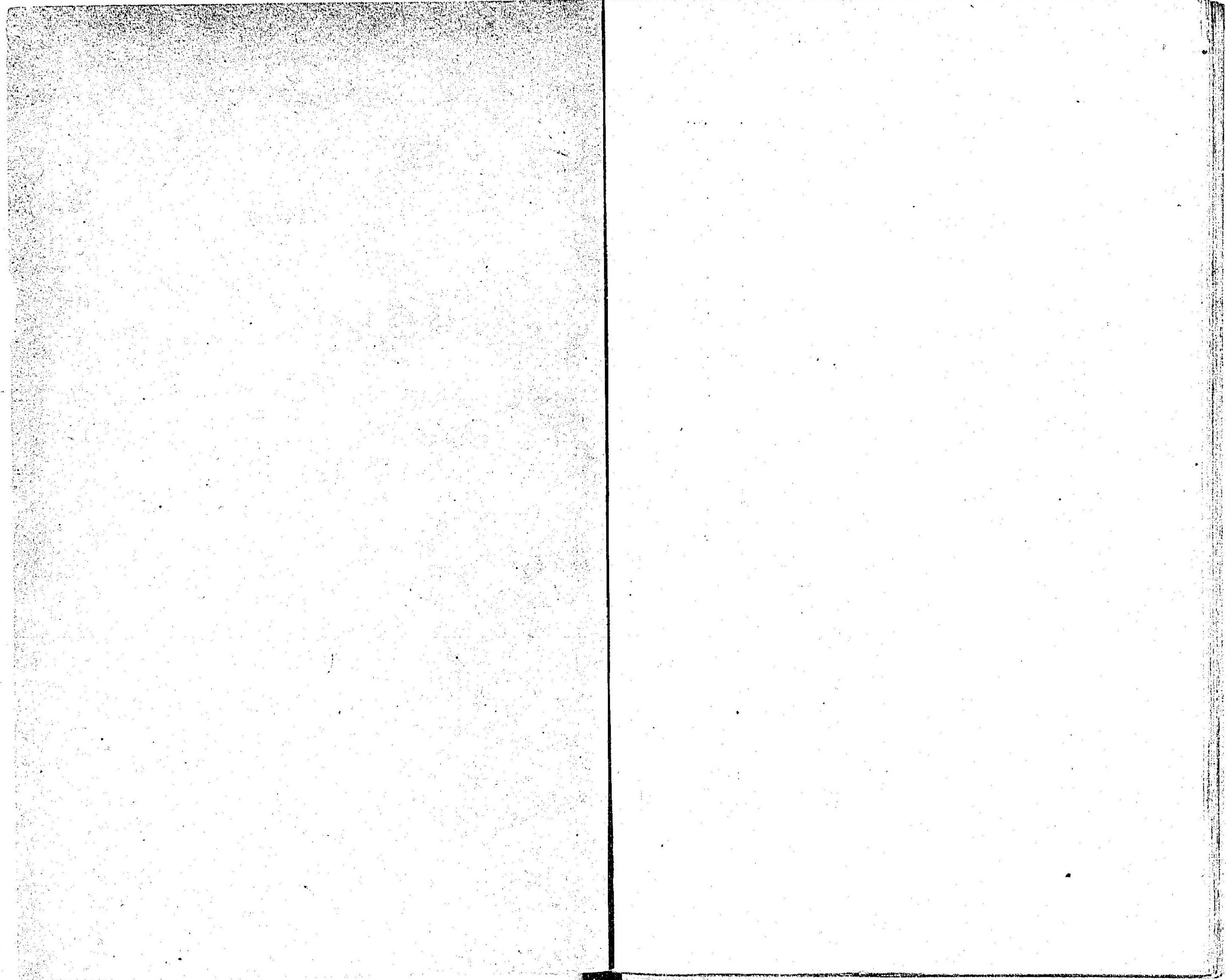
發兌

全和泉屋

牧野善兵衛

東京芝區芝口
壹丁目四番地

和
大
檢
査
法



Part 2 of 2

東 京 圖 書 館

函 二 二 門 新

架 二 部 三

號 類 九



2/1
1
13

和姦検察法
タイロル著

060967-000-5

特16-217

和姦検察法

タイロル/著

M12

CBN-0077



4
2